

## 2. 本市の現状とまちづくりの基本的な考え方

### 2.1 市勢

#### (1) 沿革

鹿兒島の地名については、いろいろな説がありますが、国史に記されたのは約1200年前からです。当時の鹿兒島市は一寒村でしたが、今日のように発展した始まりは、1185年に島津家の始祖忠久が薩摩、大隅、日向の守護職に任ぜられ、以後1341年第5代貞久が現市街地北部の東福寺城（多賀山）を居城としたときからです。

その後、清水城、内城と変遷が続き、1602年第18代家久が鶴丸城を構築、以来江戸時代を通じ第29代忠義までの267年間にわたり、島津77万石の居城となりました。この鶴丸城の築城の際、城下町も併せて整備され、これが現在の中心市街地の都市的起源となっています。

1871（明治4）年の廃藩置県とともに県庁所在地となり、1889（明治22）年全国で最初の市のひとつとして市制がしかれました。以来1911（明治44）年、1920（大正9）年、1934（昭和9）年の隣接村編入により、市域面積は約80km<sup>2</sup>となりました。1944（昭和19）年には人口約20万人の都市として大きく発展してきましたが、翌20年太平洋戦争により市街地の93%を焼失しました。

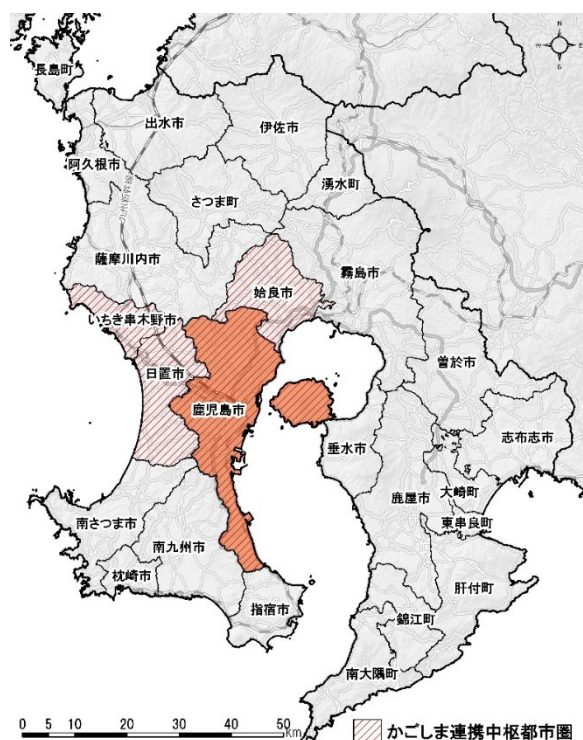
しかし、いち早く戦災復興都市計画事業により、大規模な街づくりが始まり、1959（昭和34）年にはほとんど同事業が完了しました。

また、1950（昭和25）年に伊敷・東桜島両村を編入、1967（昭和42）年には谷山市と合併、2004（平成16）年11月1日には、吉田町、桜島町、喜入町、松元町及び郡山町を編入して新しい鹿兒島市が誕生、現在では人口約60万人の南九州における中枢中核都市として発展を続けています。

#### (2) 位置及び地勢

本市は、九州の南端鹿兒島県のほぼ中央部にあって、東経130° 23′ から130° 43′、北緯31° 17′ から31° 45′ に位置し、北は始良市、西は日置市、南は指宿市等と接しています。また、東は鹿兒島湾（錦江湾）に面し、海を隔てた桜島を含んだ東西約33km、南北約51kmの風光明媚な都市です。

市街地は、鹿兒島湾（錦江湾）に流入している甲突川、永田川等の中小河川により形成された小平野部にあり、その周辺は、海拔100mから300mの丘陵地帯（シラス台地）となっています。本市のシンボルとして知られている桜島（標高1,117m）は、市街地から約4kmの対岸にある活火山です。

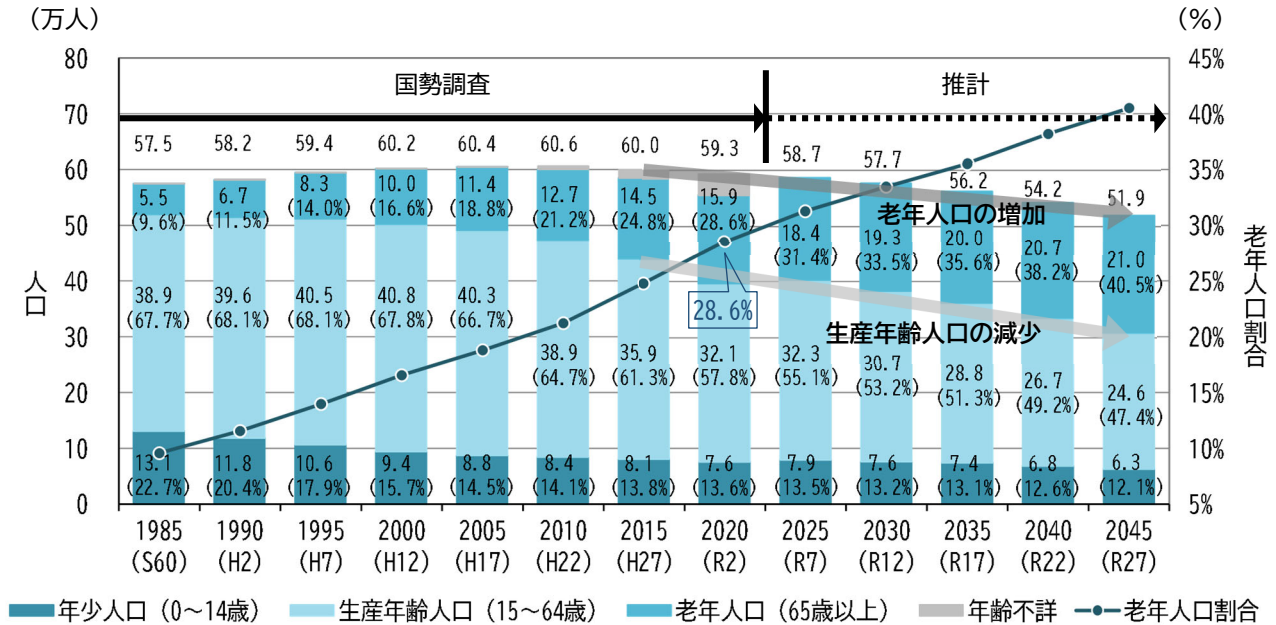


## 2.2 市全体の現状

### (1) 人口

#### ① 人口動向

人口は、2020（令和2）年から25年後の2045（令和27）年には7.4万人減少するなか、老年（65歳以上）人口がさらに増加し、経済活動を支える生産年齢（15～64歳）人口が大きく減少することが予測されています。



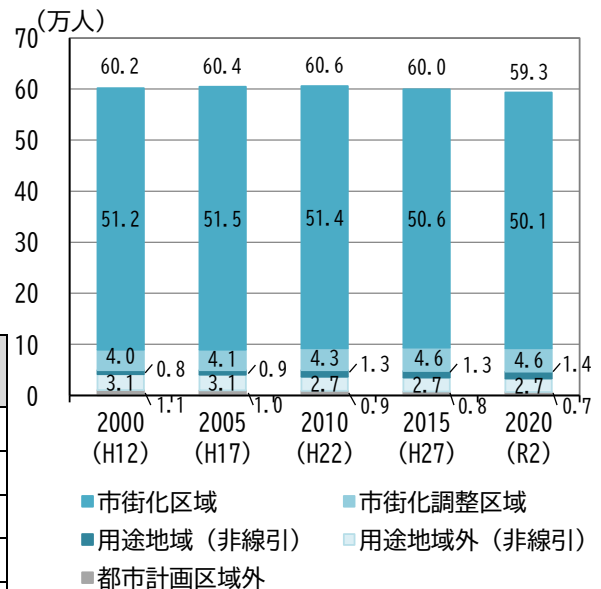
資料) 2020（令和2）年までは、国勢調査（2004（平成16）年に合併した5町を含む。）、2025（令和7）年以降は2020（令和2）年国勢調査の結果を基にコーホート要因法により推計

#### ▲ 人口の推移

区域別の人口割合は、2000（平成12）年は、市街化区域に約85%が居住していましたが、その割合は徐々に低下しています。

一方で、市街化調整区域や非線引き都市計画区域の用途地域の人口割合は増加傾向にあります。

	2000年 (H12)	2005年 (H17)	2010年 (H22)	2015年 (H27)	2020年 (R2)
市街化区域	85.1%	85.1%	84.8%	84.4%	84.4%
市街化調整区域	6.7%	6.7%	7.1%	7.6%	7.7%
用途地域（非線引）	1.4%	1.4%	2.1%	2.2%	2.3%
用途地域外（非線引）	5.1%	5.1%	4.5%	4.5%	4.5%
都市計画区域外	1.8%	1.7%	1.5%	1.3%	1.1%



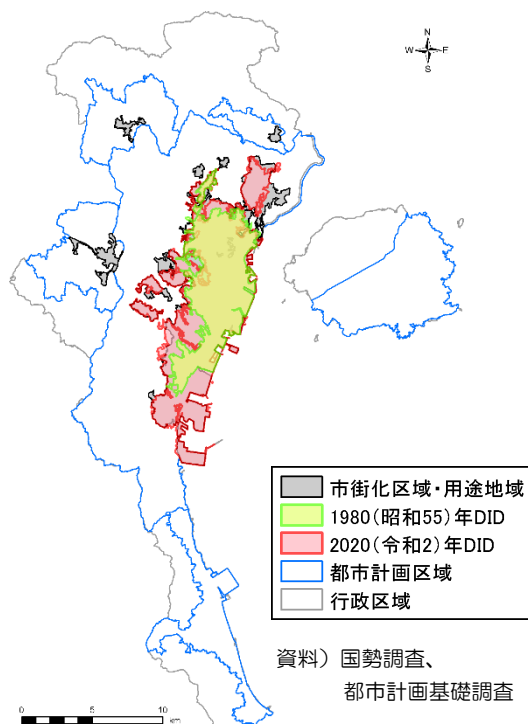
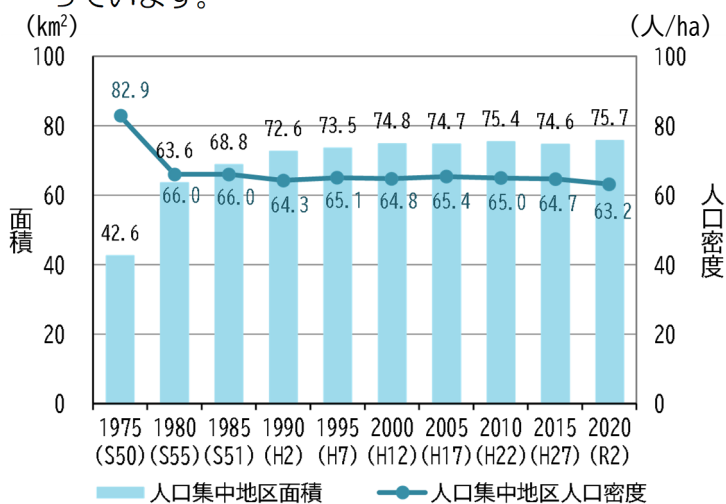
資料) 2015（平成27）年までは都市計画基礎調査、2020（令和2）年は国勢調査

#### ▲ 区域別人口の推移

注) 図表中の数値は、単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。また、構成比は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。なお、年齢三区分別人口の構成比は、年齢不詳を除いて算出しています。

## ② 人口集中地区の推移・現況

人口集中地区は、1975（昭和50）年時点の42.6km<sup>2</sup>から1980（昭和55）年に大幅に拡大し、その後は面積、人口密度ともに概ね横ばいとなっています。



▲ 鹿児島市の人口集中地区の面積及び人口密度の推移

▲ 人口集中地区の変遷

## ③ 団地別人口・世帯数の推移・現況

多くの住宅団地で人口は減少傾向にあります。また、29団地の高齢化率は2010（平成22）年から2015（平成27）年にかけて5.8ポイント上昇し、市全体の高齢化率を上回っています。

▼ 団地の人口・世帯数

団地名	開発面積 (ha)	人口			高齢化率			世帯数		
		2010年 (H22) (人)	2015年 (H27) (人)	増減率 (%)	2010年 (H22) (%)	2015年 (H27) (%)	増減 (ポイント)	2010年 (H22) (世帯)	2015年 (H27) (世帯)	増減率 (%)
大明ヶ丘団地	32.0	2,739	2,374	△ 13.3	33.9	41.3	7.4	1,215	1,083	△ 10.9
伊敷団地・岡之原団地	111.6	8,975	8,120	△ 9.5	34.7	40.5	5.8	3,733	3,536	△ 5.3
千年団地	43.3	2,649	2,622	△ 1.0	32.4	40.4	8.0	1,092	1,084	△ 0.7
緑ヶ丘団地	31.5	2,573	2,371	△ 7.9	27.9	36.1	8.2	1,035	1,006	△ 2.8
坂元団地	15.2	1,117	1,061	△ 5.0	32.4	35.9	3.5	487	479	△ 1.6
玉里団地	97.0	7,781	7,204	△ 7.4	29.1	35.1	6.0	3,247	3,103	△ 4.4
原良団地	111.5	8,033	7,342	△ 8.6	26.1	32.3	6.2	3,241	3,082	△ 4.9
城山団地	46.3	3,709	3,578	△ 3.5	30.6	31.3	0.7	1,646	1,611	△ 2.1
武岡団地等 ※1	142.6	11,723	11,412	△ 2.7	23.8	31.3	7.5	4,834	4,824	△ 0.2
西郷団地 ※2	135.2	12,475	12,116	△ 2.9	21.0	27.8	6.8	4,736	4,743	0.1
自由ヶ丘団地	18.8	1,806	1,709	△ 5.4	21.1	26.2	5.1	721	699	△ 3.1
桜ヶ丘団地	139.8	12,621	11,714	△ 7.2	16.1	22.8	6.7	5,101	4,955	△ 2.9
花野団地	50.1	4,012	3,674	△ 8.4	13.2	22.7	9.5	1,395	1,422	1.9
牟礼岡団地	55.4	3,138	2,914	△ 7.1	15.2	22.0	6.8	1,138	1,140	0.2
星ヶ峯ニュータウン等 ※3	206.5	12,176	12,508	2.7	14.3	21.6	7.3	4,485	4,821	7.5
紫原団地	145.7	19,118	18,845	△ 1.4	18.5	21.4	2.9	8,260	8,403	1.7
魚見ヶ原団地	26.8	2,618	2,570	△ 1.8	16.1	21.3	5.2	987	994	0.7
伊敷ニュータウン等 ※4	146.2	8,835	8,645	△ 2.2	9.5	14.2	4.7	3,036	3,148	3.7
皇徳寺ニュータウン等 ※5	159.8	12,987	11,975	△ 7.8	7.6	13.7	6.1	4,275	4,228	△ 1.1
住宅団地 (29団地)		139,085	132,754	△ 4.6	20.0	25.8	5.8	54,664	54,361	△ 0.6
鹿児島市		605,846	599,814	△ 1.0	21.2	24.8	3.6	264,686	270,269	2.1

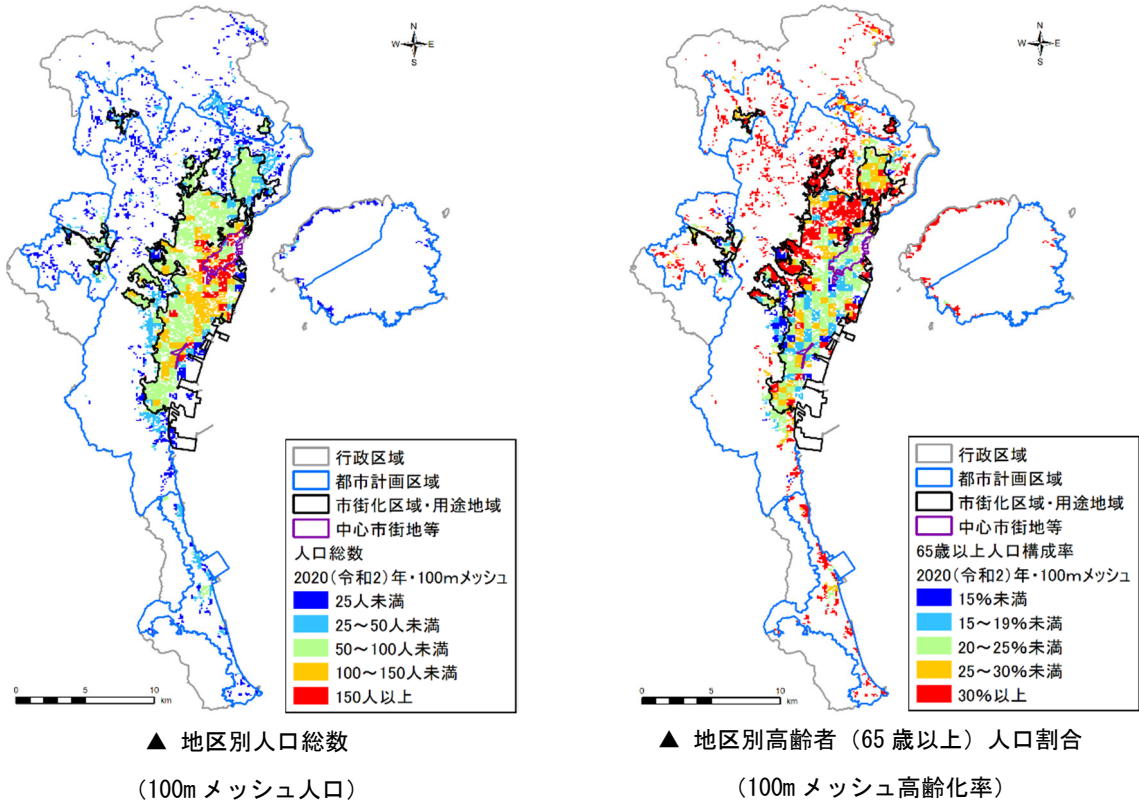
※1: 武岡団地・武岡ハイランド・武岡ピュアタウン・武岡台 ※2: 西郷団地 (一工区、二工区、三・六工区)

※3: 星ヶ峯ニュータウン・星ヶ峯南 ※4: 伊敷ニュータウン・西玉里団地・伊敷ニュータウンひがし台 ※5: 皇徳寺ニュータウン・南皇徳寺台団地

資料) かがしま団地みらい創造プラン (2021 (令和3)年3月) を基に作成

#### ④ 地区別人口分布

人口は、市街化区域や用途地域に概ね集中しています。一方で、市街化調整区域や用途地域外では、高齢化率（65歳以上の人口の割合）が高い状況にあります。



資料) 2020(令和2)年国勢調査 地域統計メッシュを加工して作成

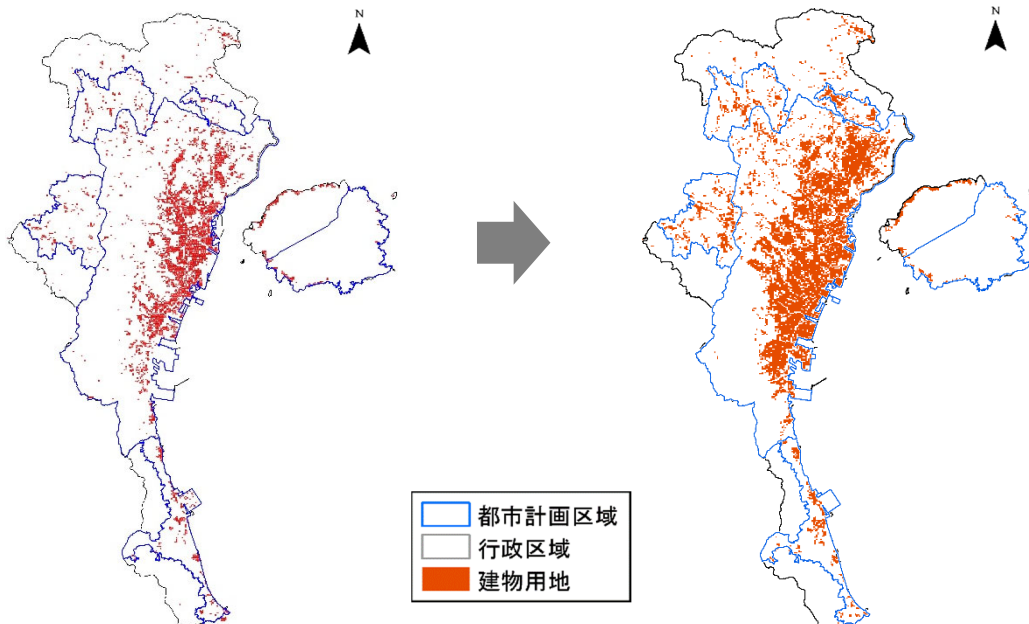
#### (2) 土地利用

##### ① 土地利用の推移

住宅地や市街地等の建物用地は、1976(昭和51)年から、2021(令和3)年の約45年間で拡大しています。

【1976(昭和51)年】

【2021(令和3)年】



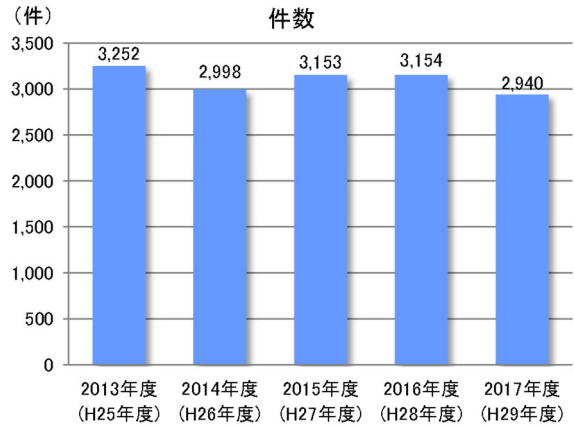
▲ 建物用地（住宅地・市街地等）の推移

資料) 国土数値情報

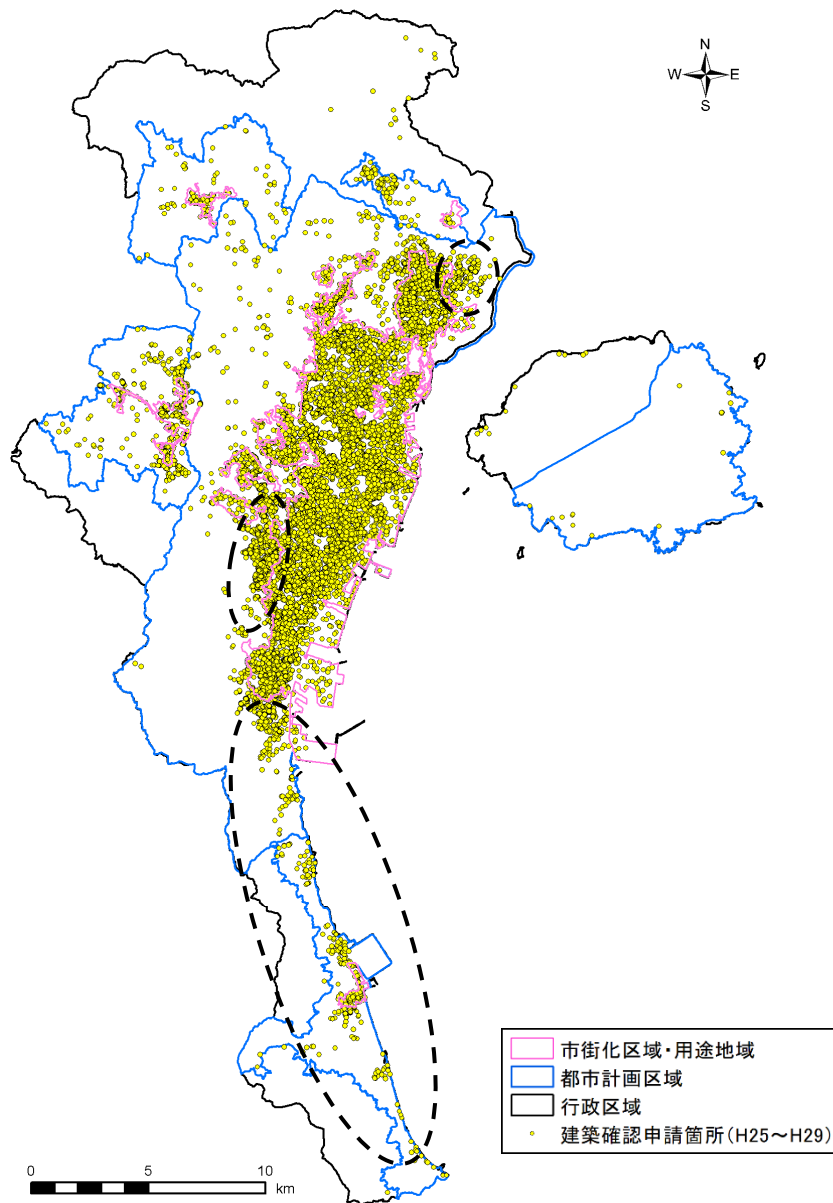


② 開発動向（建築確認申請）

建築確認申請は、概ね年間 3,000 件前後で推移しています。市街化区域内が中心ですが、市街化区域や用途地域に隣接する外側の地域や沿岸部などで新築が多くなっているところがあります。



▲建築確認申請の推移（2013～2017（平成 25～29）年度）

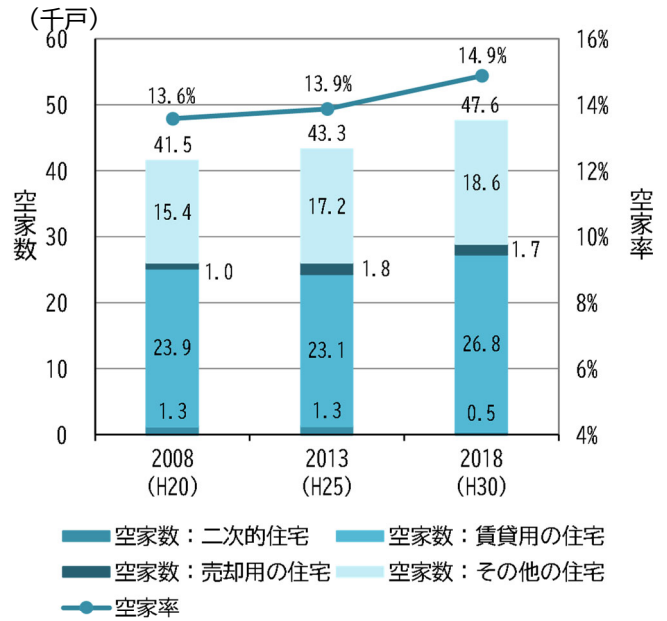


▲建築確認申請箇所（2013～2017（平成 25～29）年度）

資料）鹿児島市都市計画基礎調査

### ③ 空家

空家数は、増加傾向にあり、2018（平成30）年調査では空家数は47.6千戸、空家率は14.9%となっており、居住世帯が長期にわたって不在などの「その他の住宅」が18.6千戸となっています。



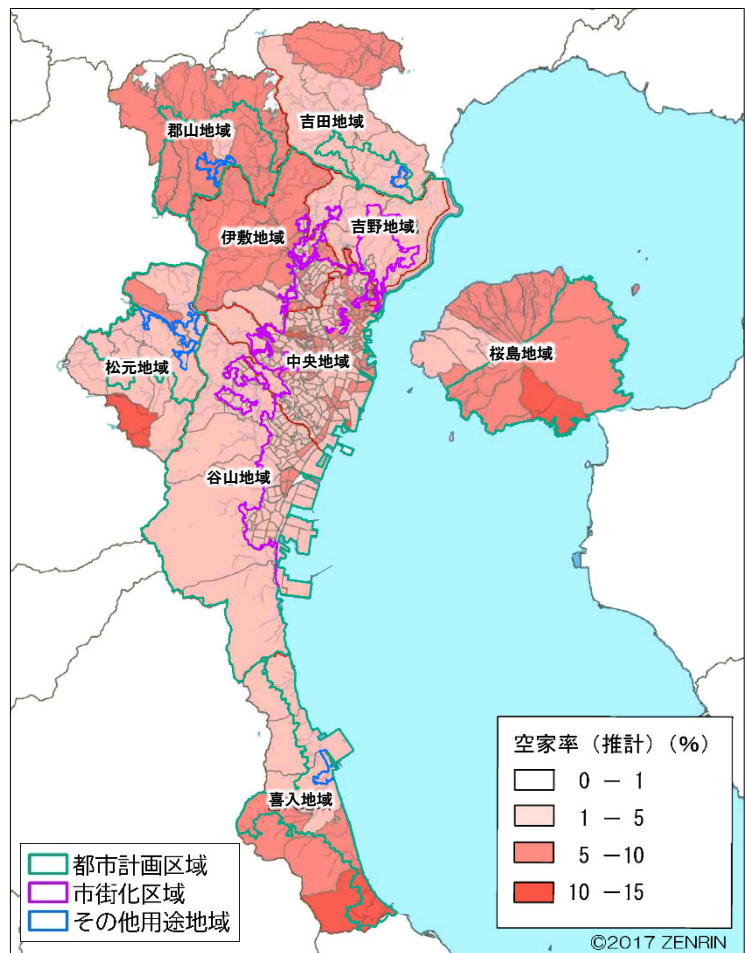
資料) 住宅・土地統計調査

▲ 空家数・空家率の推移

空家率は、伊敷地域や桜島地域の市街化調整区域及び郡山地域で5%以上の地区が多く、また、松元地域、吉田地域の都市計画区域外の一部でも空家率が高くなっています。

喜入地域では、市中心部から離れた南部で10%以上の地区が見られます。

市街化区域にも空家率5%以上の地区が点在しており、中心市街地においても空家の発生による都市の空洞化が進行している状況にあります。



資料) 鹿児島市資料

▲ 空家の分布状況

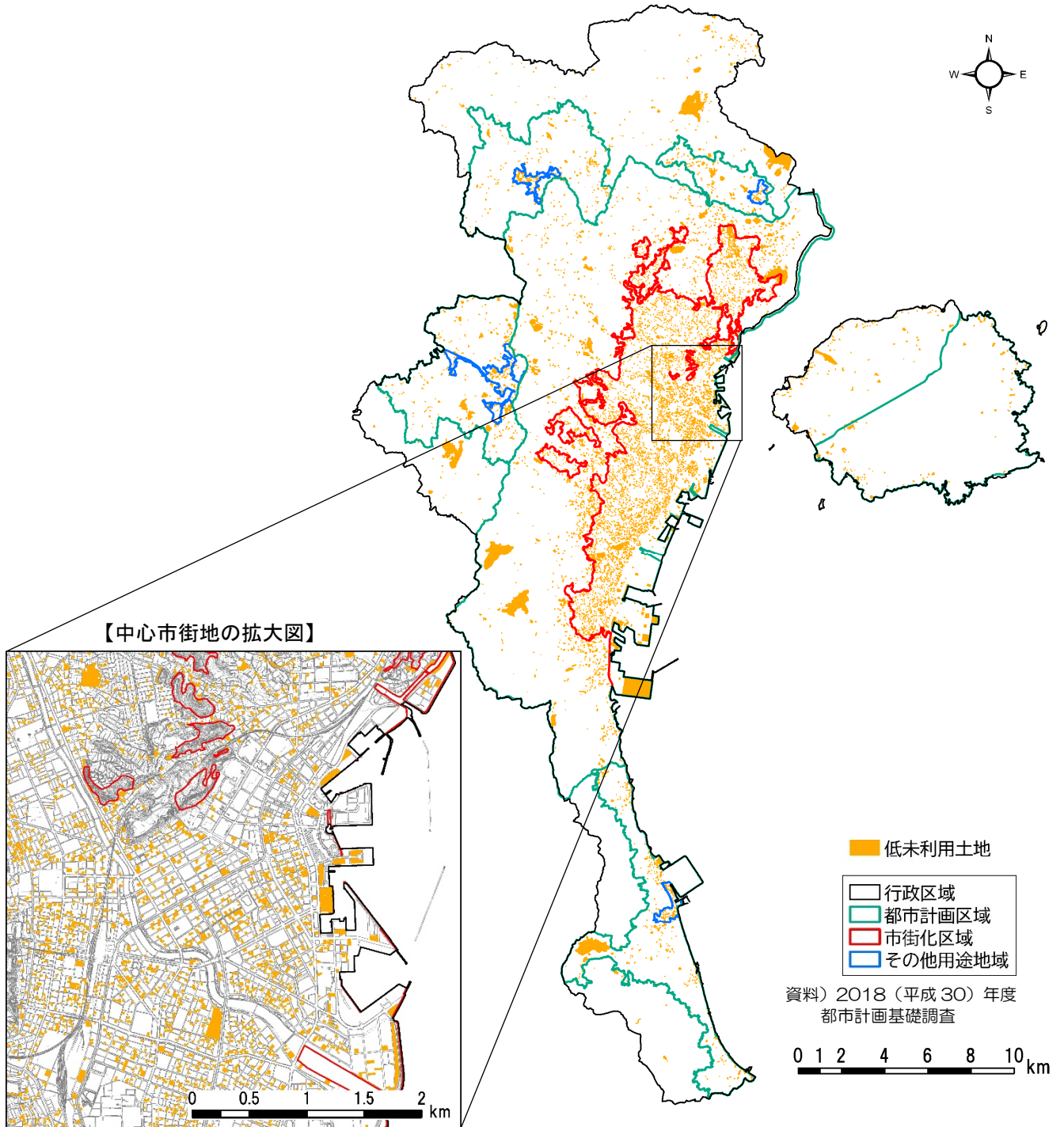
注) 空家数、空家率の推移に示す数値は、単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。また、空家の分布状況に示す空家率は、集合住宅の取扱が異なるなどの理由により、住宅・土地統計調査の空家率とは値が異なります。

#### ④ 空き地等の低未利用土地の分布

空き地等の低未利用土地\*は、市全域に点在しており、中心市街地においても同様の状況となっています。

※ 空き地、平面駐車場、ゴルフ場、工事中の土地 など

(2018(平成30)年時点の状況であるため、既に土地利用が図られている場所を含みます)

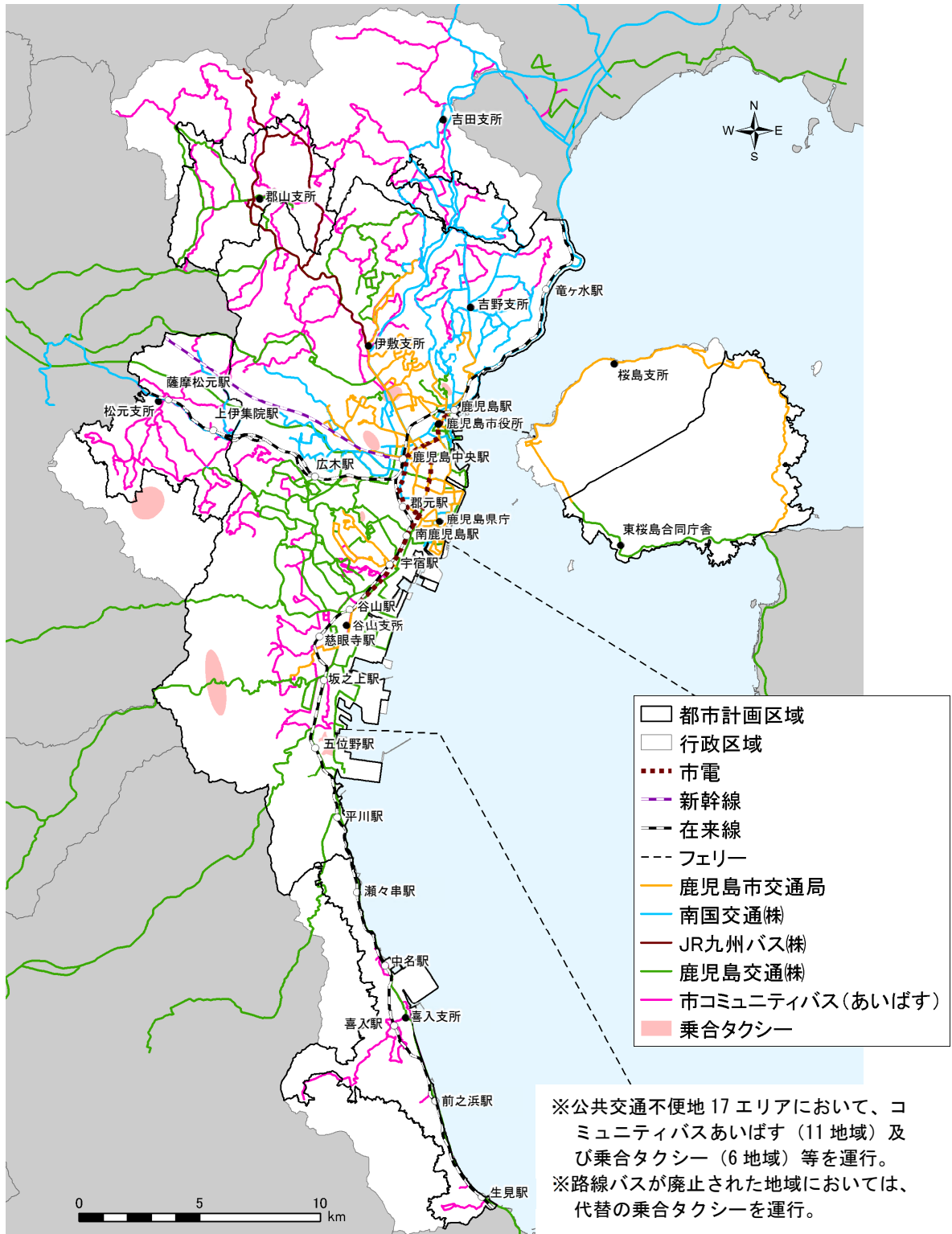


### (3) 公共交通

#### ① 公共交通網

本市の都市計画区域の公共交通網は、JR 在来線に加え、市街地を市電が運行しているとともに、鉄軌道がカバーされていない地域においては路線バスやコミュニティバス（あいばす）が運行しています。また、桜島や大隅半島等を結ぶフェリーが運航しています。

路線バスは、鹿児島市交通局を含め 4 事業者で運行しており、主に北部地域を南国交通、鹿児島交通、JR 九州バス、西部地域を南国交通、鹿児島交通、南部地域を鹿児島交通が担っており、中心市街地等と各団地を結ぶ路線を鹿児島市交通局等が運行している状況です。

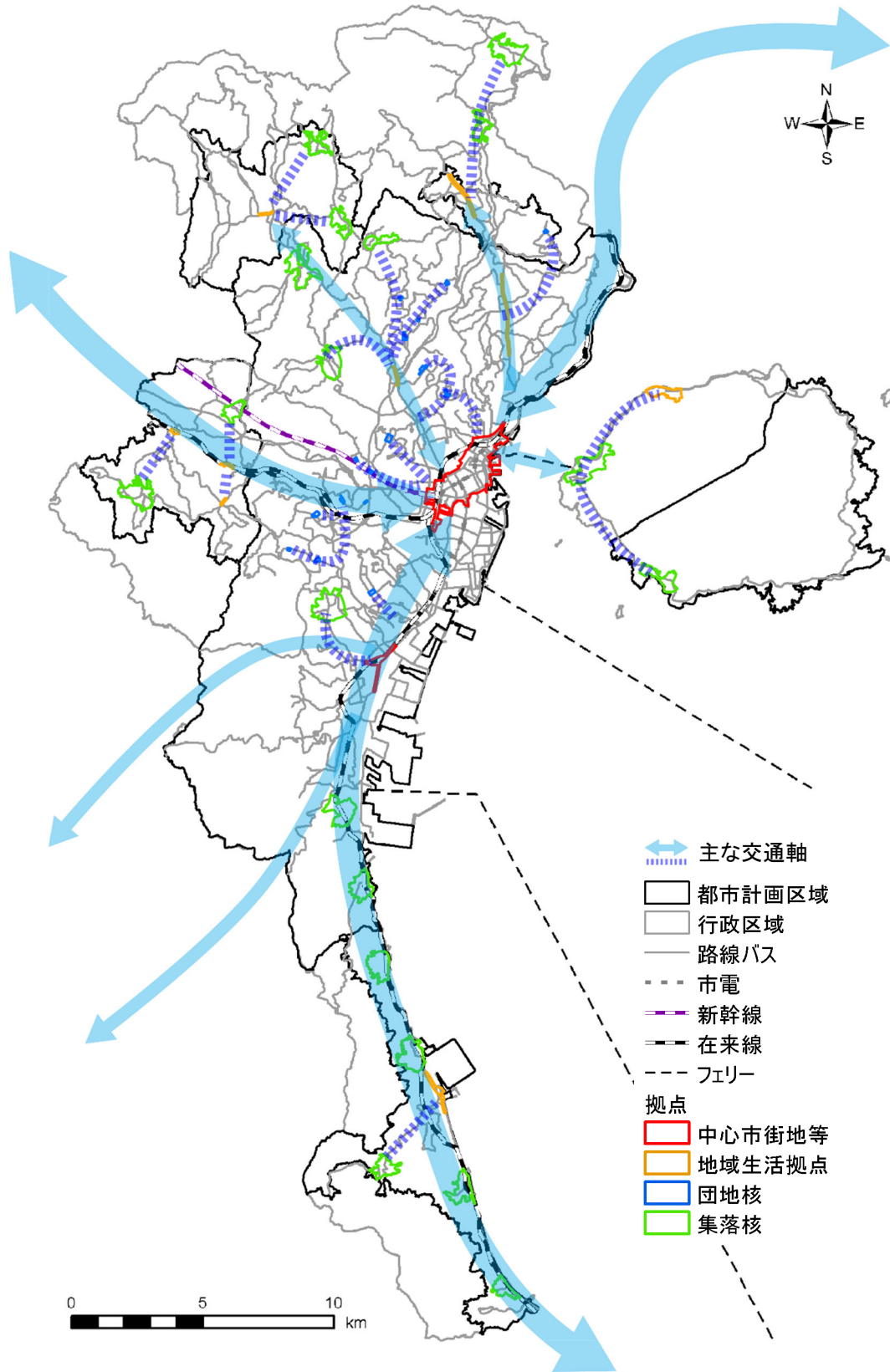


資料) 第二期鹿児島市公共交通ビジョン (2022 (令和 4) 年 3 月) を基に作成



## ② 公共交通網と拠点の関係

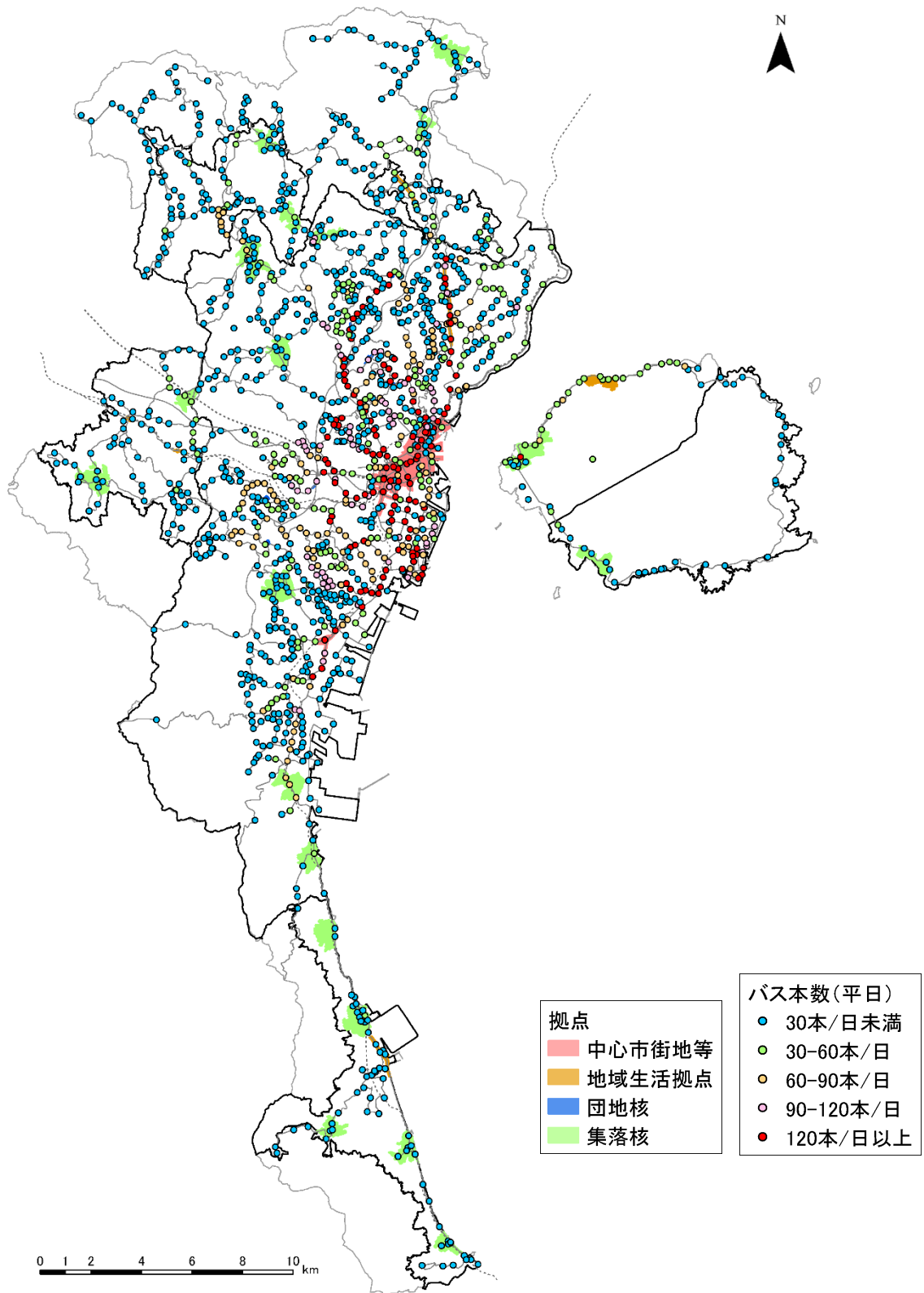
中心市街地等と地域生活拠点は鉄軌道や路線バスで結ばれており、中心市街地等や地域生活拠点と団地核・集落核は路線バス等で結ばれている状況です。



▲公共交通網と本市の拠点

### ③ 路線バスの運行本数

路線バスの運行本数は、中心市街地等の内外や、中心市街地等と周辺の地域生活拠点・団地核等との間で120本/日以上等の多くの本数が確保されていますが、市街化区域の周辺部や郊外部等では30本/日未満が多くなっています。



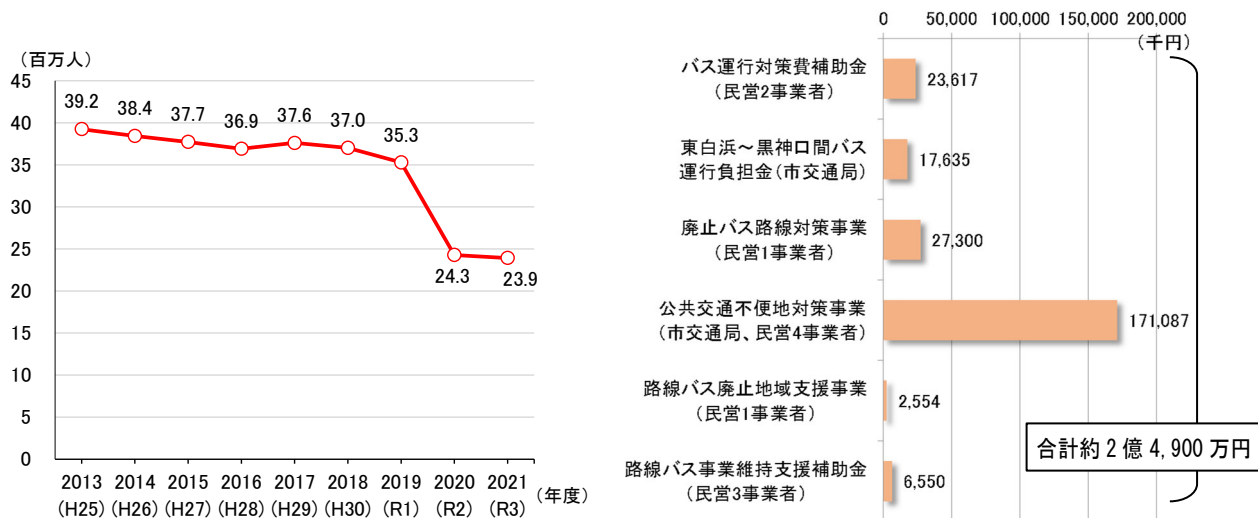
▲路線バスの運行本数

資料) 各バス事業者、九州のバス時刻表ホームページ(2022(令和4)年9月時点)を基に作成

#### ④ 路線バス輸送人員等の推移及びバス交通等に係る負担状況

県内の路線バス輸送人員は年々減少しています。(2020(令和2)年度、2021(令和3)年度は新型コロナウイルス感染症の影響で減少しています。)

本市では、日常生活の交通手段確保を目的にバス交通等の維持・確保に係る6つの事業を実施しており、2021(令和3)年度における負担額は約2億4,900万円となっています。



▲ 鹿児島県内路線バス輸送人員の推移

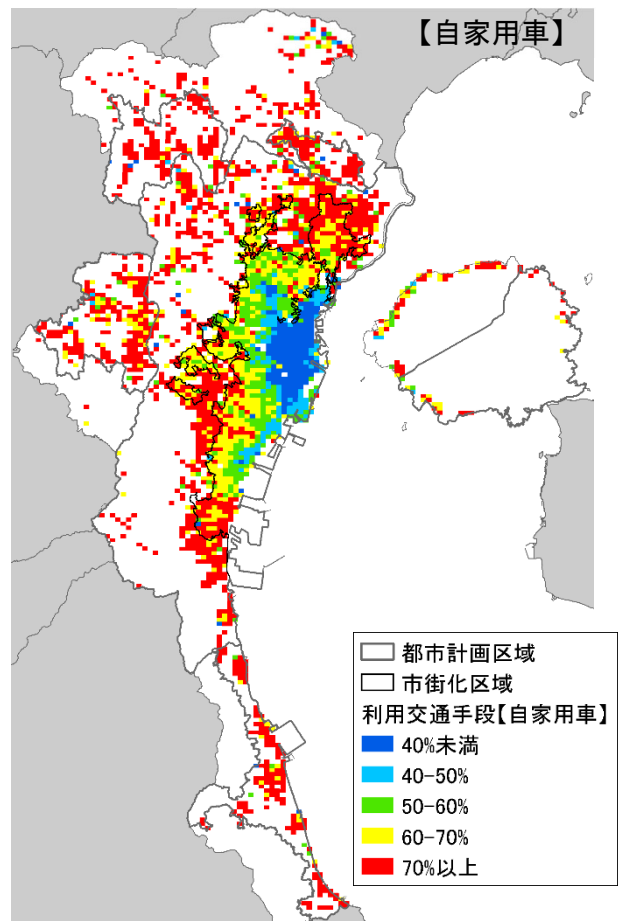
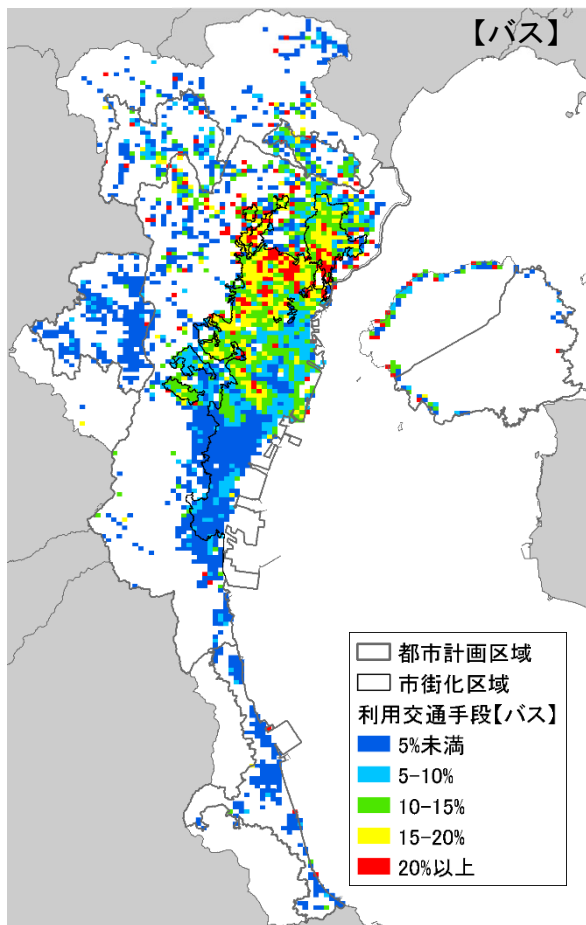
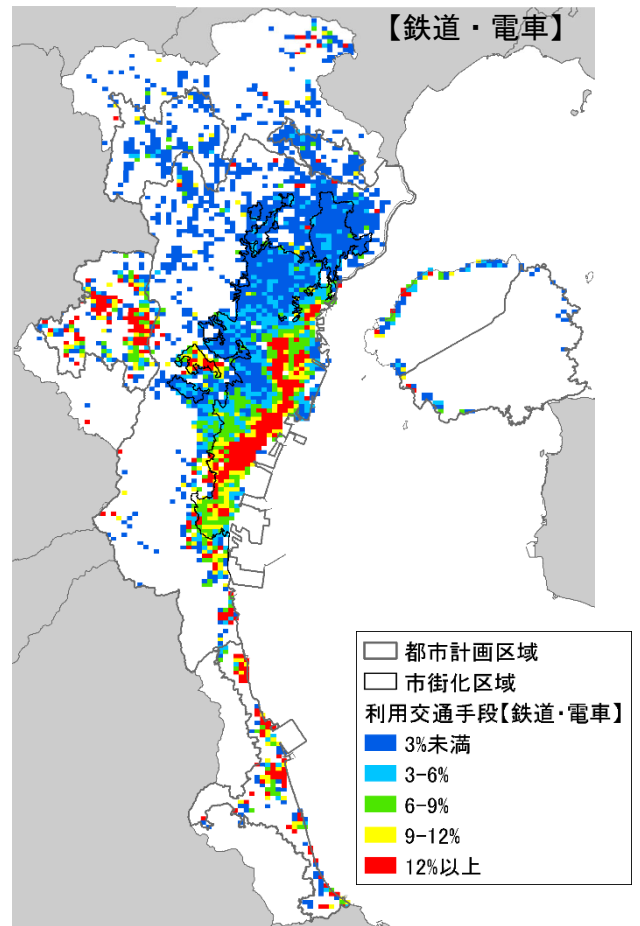
資料) 国土交通省九州運輸局「九州運輸要覧」

▲ 鹿児島市のバス交通等維持・確保の負担状況 (2021(令和3)年度)

資料) 鹿児島市ホームページ

### ⑤ 通勤通学時の利用交通手段の特性

通勤通学時の利用交通手段は、中心市街地から南部方面の市電沿線や市西部、市南部の鉄道沿線では鉄道・電車の分担率が比較的高く、市北部や市街地縁辺部の団地等ではバスの分担率が高い状況です。



▲ 通勤通学時の利用交通手段 (2020年、250mメッシュ)

資料) 2020(令和2)年国勢調査 地域統計メッシュ



#### (4) 都市機能

##### ① 施設等（施設区分ごと）の人口カバー状況

- 現状の人口分布に対する施設立地状況を評価することが将来都市構造を検討する上で重要です。
- 医療・福祉・商業等の日常生活サービス施設は、一定の人口密度に支えられて立地してきた状況であり、人口減少に伴い人口密度が低下すると、これらの日常サービスが成立しなくなる可能性があり、これに伴う撤退等が懸念されます。
- その他の都市施設についても、同様に施設立地状況を把握し、現在の都市構造を分析する必要があります。



施設立地状況と人口密度との関係を図化して、それを人口カバー率<sup>\*</sup>として評価

##### ▼都市機能の施設区分と施設内容

施設区分	施設内容
①-1 病院	ベッド数が20床以上の医療機関
①-2 病院・診療所	「①-1 病院」及びベッド数が20床未満の医療機関
①-3 歯科診療所	ベッド数が20床未満の医療機関で診療項目に歯科をあげる施設
①-4 調剤薬局	処方箋などに対応できる薬局（ドラッグストアのみのものは含まない）
①-5 障害者福祉施設	入所施設、ショートステイ施設、就労支援施設等
①-6 高齢者向け福祉施設	通所介護施設、老人ホーム、グループホーム等（訪問介護事業所を除く）
①-7 児童福祉施設等	保育所、認定こども園、児童クラブ等
①-8 幼稚園・小学校	公立、私立含む
①-9 図書館・博物館・美術館	公立、私立含む、図書館には公民館図書室を含む
①-10 商業施設	スーパーマーケット、大規模小売店（1,000㎡以上）
①-11 金融施設	銀行、信用金庫、信用組合、郵便局等
①-12 バス停	路線バス、コミュニティバス（あいばす）停留所

##### ※人口カバー率

- ・各施設から半径500m（徒歩圏）に人口の何割が居住しているかを示す比率

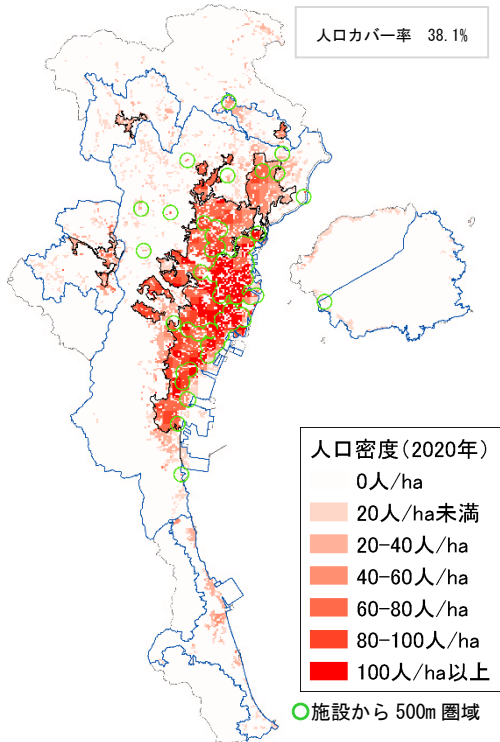
$$\text{人口カバー率} = \frac{\text{各施設から半径500m（徒歩圏）に居住している人口}}{\text{対象地区の人口総数}}$$

※各施設から半径500m圏（徒歩圏）を基本に、2020（令和2）年国勢調査500mメッシュを基に作成した100mメッシュより算出。

※メッシュの重心が各エリアに含まれるものを対象として集計。

### ①-1 医療施設：病院

病院は、市街地部に集中立地していますが、市街地においてもカバーされていない地域が多い状況です。郊外部では病院の立地は少なく、市街化調整区域や用途地域外での立地も見られます。

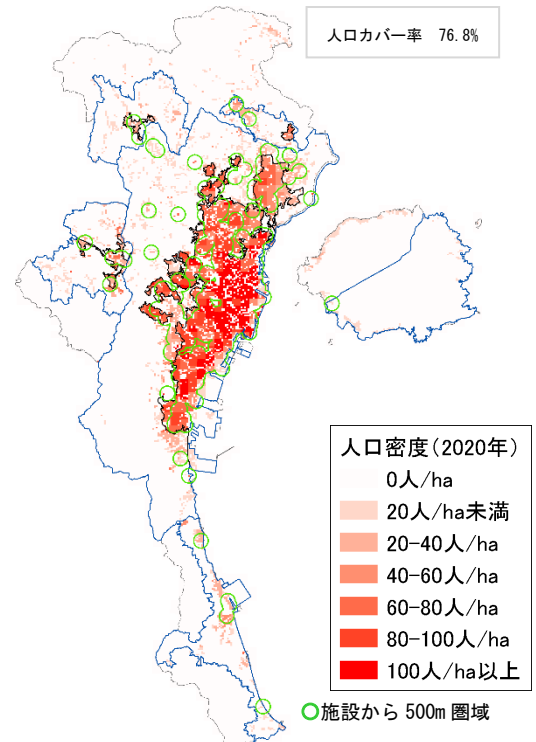


▲病院からの圏域と人口密度

資料) 鹿児島市資料

### ①-2 医療施設：病院・診療所

病院・診療所は、市街地部に集中立地するとともに、市全域に分散立地しており、人口カバー率は比較的高くなっています。

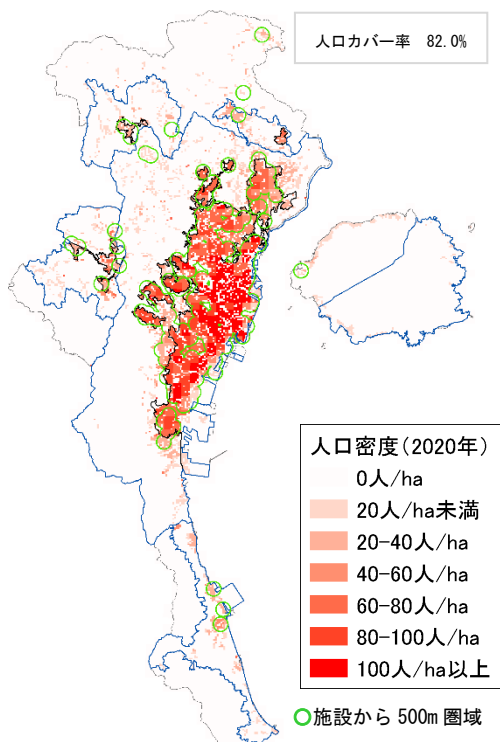


▲病院・診療所からの圏域と人口密度

資料) 鹿児島市資料

### ①-3 医療施設：歯科診療所

歯科診療所は、市街地部に集中立地するとともに、市全域に分散立地しており、人口カバー率は比較的高くなっています。

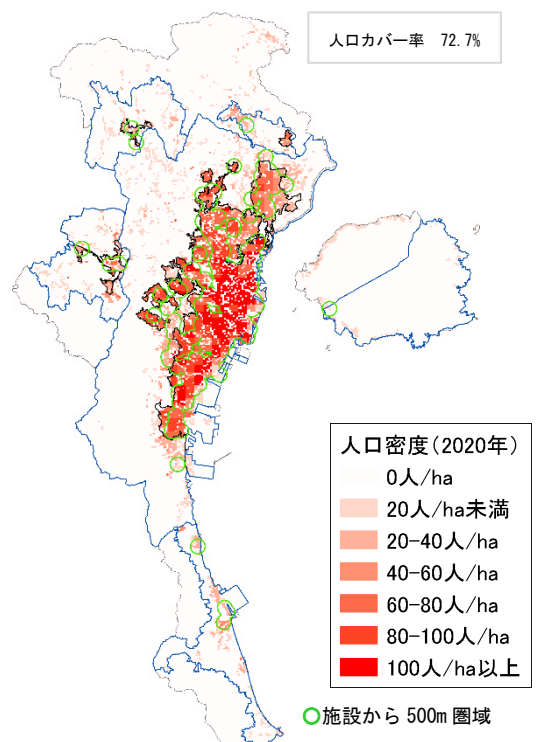


▲歯科診療所からの圏域と人口密度

資料) 鹿児島市資料

### ①-4 医療施設：調剤薬局

調剤薬局は、市街地部に集中立地しており、鹿児島都市計画区域外では用途地域内に立地が見られますが、人口カバー率が低い状況です。

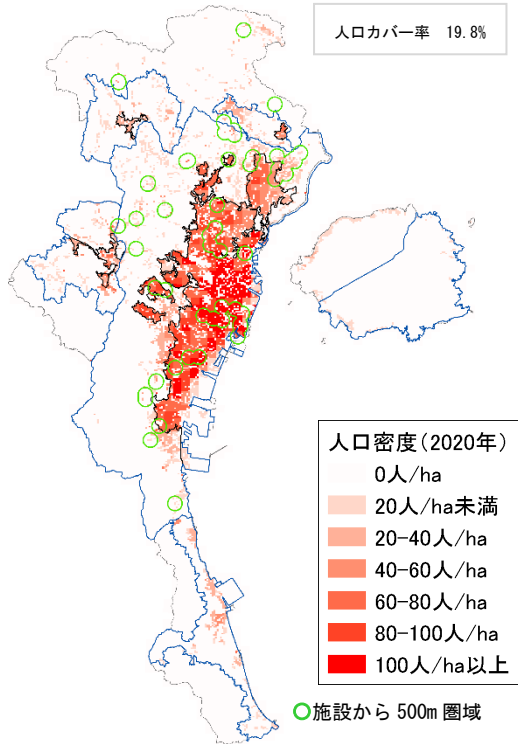


▲調剤薬局からの圏域と人口密度

資料) 鹿児島市資料

①-5 社会福祉施設：障害者福祉施設

障害者福祉施設は、鹿児島都市計画区域の市街化区域内外いずれにも点在しています。鹿児島都市計画区域外では施設立地はわずかです。

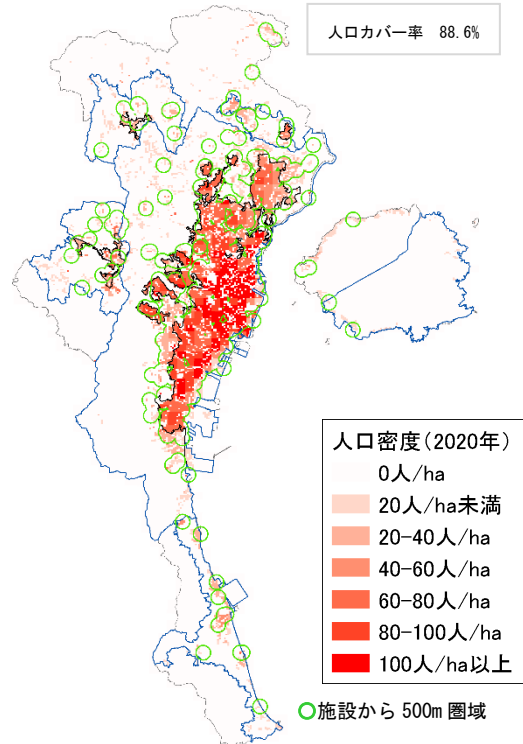


▲障害者福祉施設からの圏域と人口密度

資料) 鹿児島市資料

①-6 社会福祉施設：高齢者向け福祉施設

高齢者向け福祉施設は、人口密度が高い地域は概ねカバーされている状況であり、人口カバー率も80%以上と高い状況です。

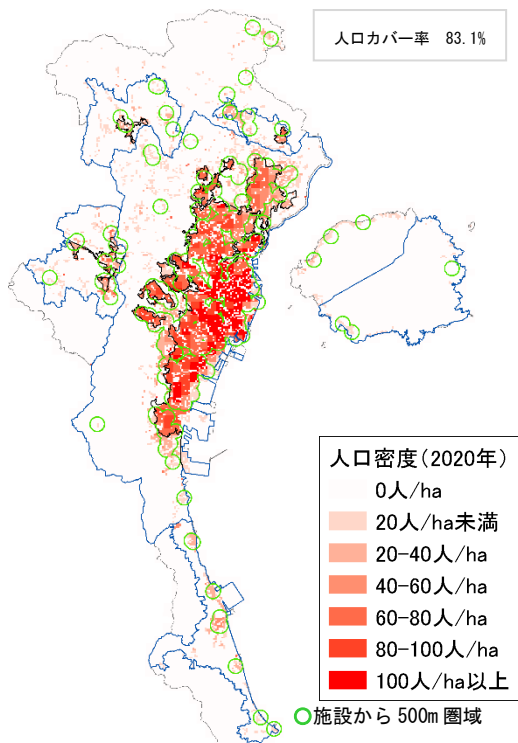


▲高齢者向け福祉施設からの圏域と人口密度

資料) 鹿児島市資料

①-7 社会福祉施設：児童福祉施設等

児童福祉施設等は、人口密度が高い地域は概ねカバーされている状況であり、人口カバー率も比較的高い状況です。

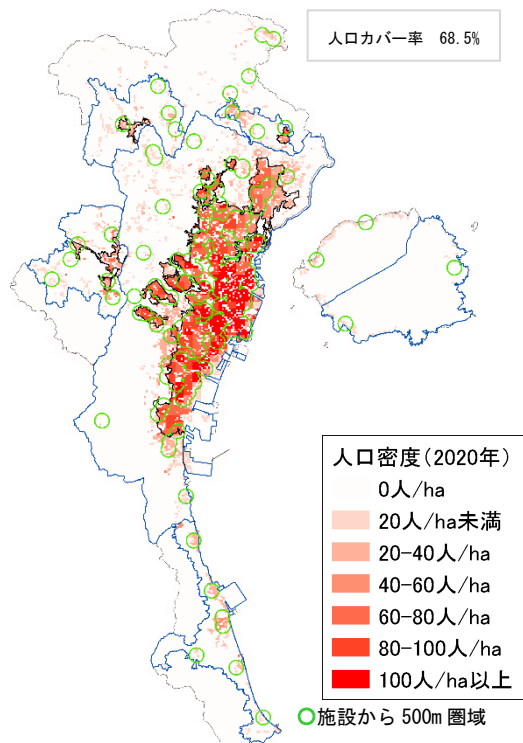


▲児童福祉施設等からの圏域と人口密度

資料) 鹿児島市資料

①-8 教育文化施設：幼稚園・小学校

幼稚園・小学校は、人口密度が高い地域は概ねカバーされています。郊外部では分散立地している状況です。

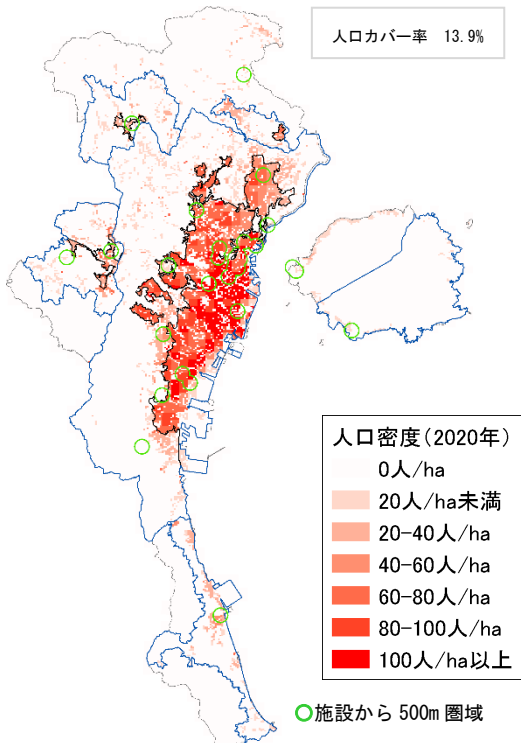


▲幼稚園・小学校からの圏域と人口密度

資料) 鹿児島市資料

### ①-9 図書館・博物館・美術館

図書館・博物館・美術館は、市全体でも立地は少ないですが、各地域の公民館に図書館が設置されています。

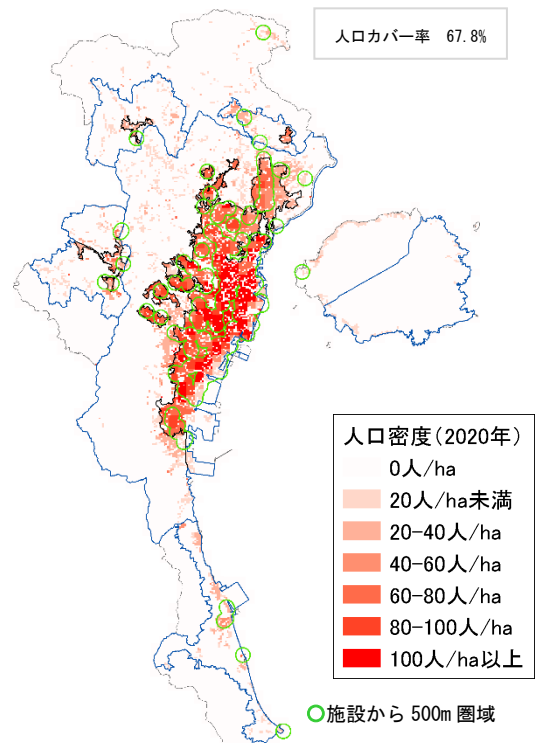


▲図書館等からの圏域と人口密度

資料) 鹿児島市資料

### ①-10 商業施設

商業施設は、市街地部に集中立地しており、人口密度が高い地域は概ねカバーされている状況です。郊外部では施設が点在しており、未カバーの地域が多く存在しています。

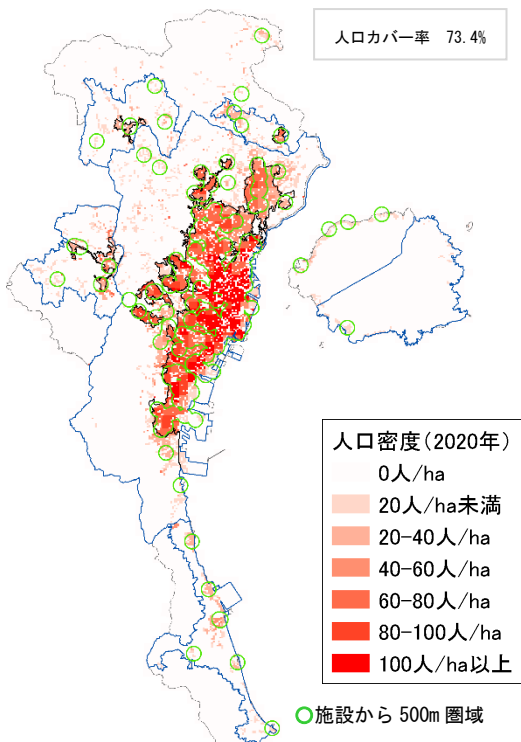


▲商業施設からの圏域と人口密度

資料) iタウンページ、全国大型小売店総覧

### ①-11 金融施設

金融施設は、市街地部に集中立地しており、人口密度が高い地域は概ねカバーされている状況であり、人口カバー率も比較的高い状況です。

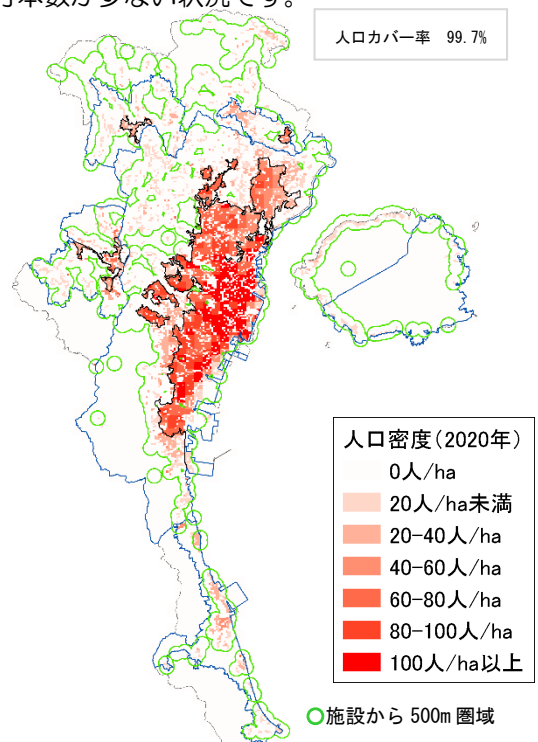


▲金融施設からの圏域と人口密度

資料) iタウンページ

### ①-12 公共交通：バス停

バス停は、コミュニティバス(あいばす)も運行していることから市全域をほぼカバーしている状況であり、市街地部ではバス停密度も非常に高い状況です。ただし、郊外部については運行本数が少ない状況です。



▲バス停からの圏域と人口密度

資料) かごしまiマップ、国土数値情報

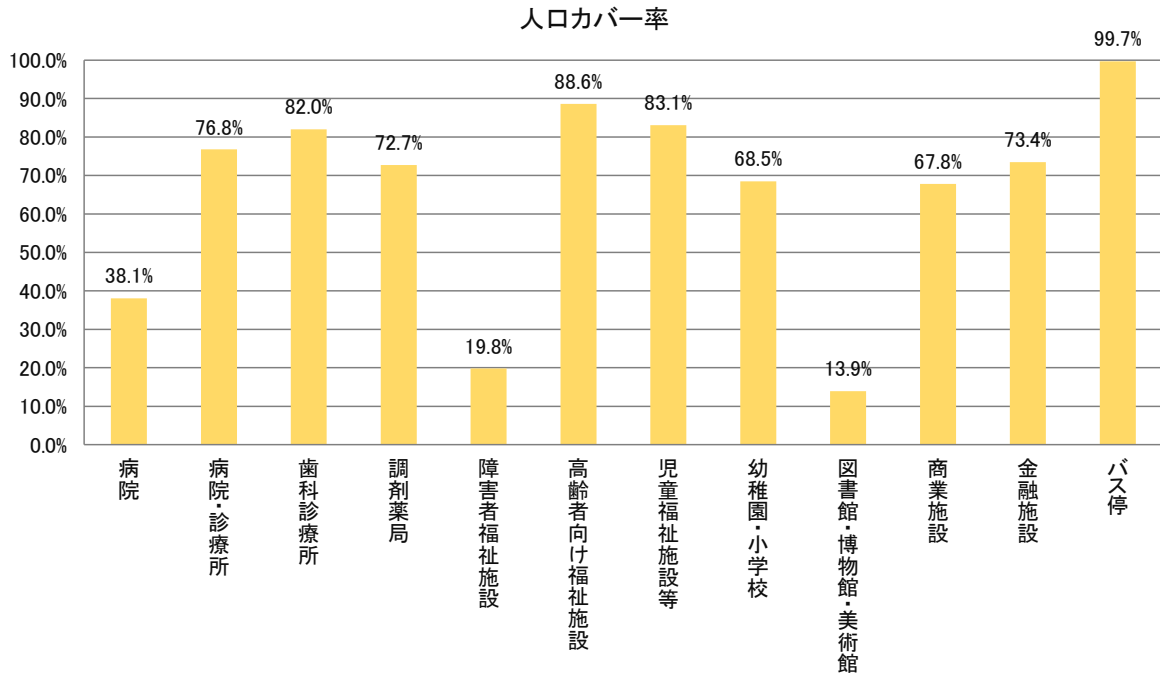


## ② 施設等の人口カバー率

主要施設の人口カバー率は、高齢者向け福祉施設、児童福祉施設等、歯科診療所が80%を超え、病院（診療所含む）も80%に近づいています。

その他、バス停に関しては約100%と市全体の人口を概ねカバーできている状況です。

（※ただし、サービス水準と関係があることを示したものではありません）



▲施設等の人口カバー率

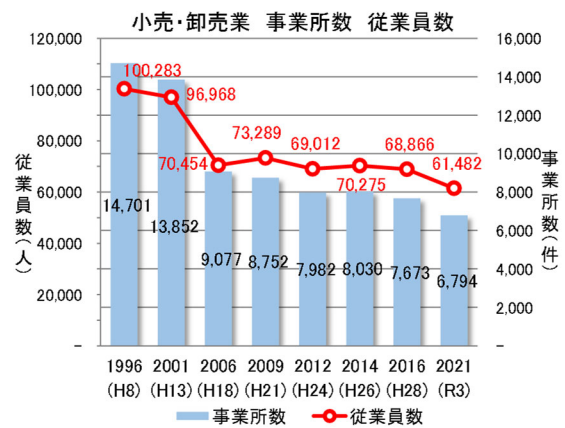
## (5) 経済活動

小売・卸売販売額は近年増加していましたが、2021（令和3）年に減少しています。また、事業所数、従業員数はともに減少傾向にあり、大規模小売店は毎年一定数が立地しています。



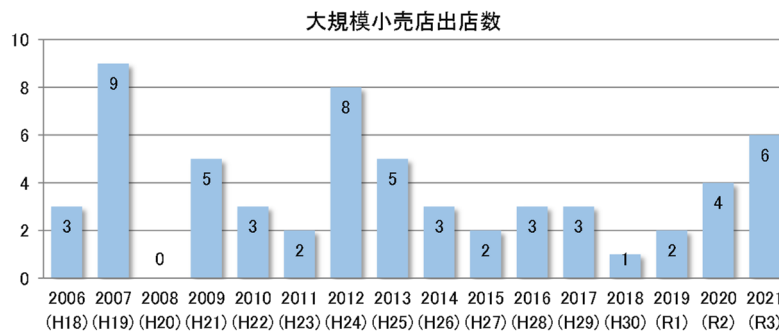
▲小売・卸売販売額の推移

資料) 商業統計調査、経済センサス



▲小売・卸売業 事業所数 従業員数の推移

資料) 事業所・企業統計調査、経済センサス

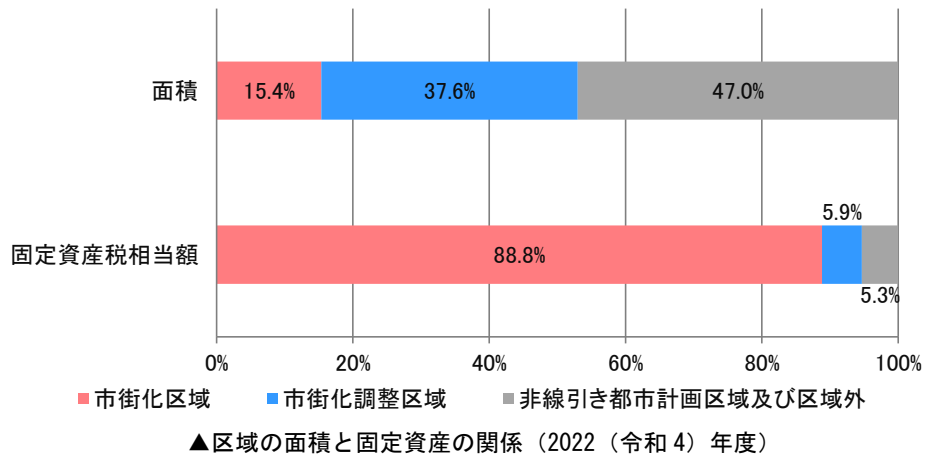


▲大規模小売店出店数の推移

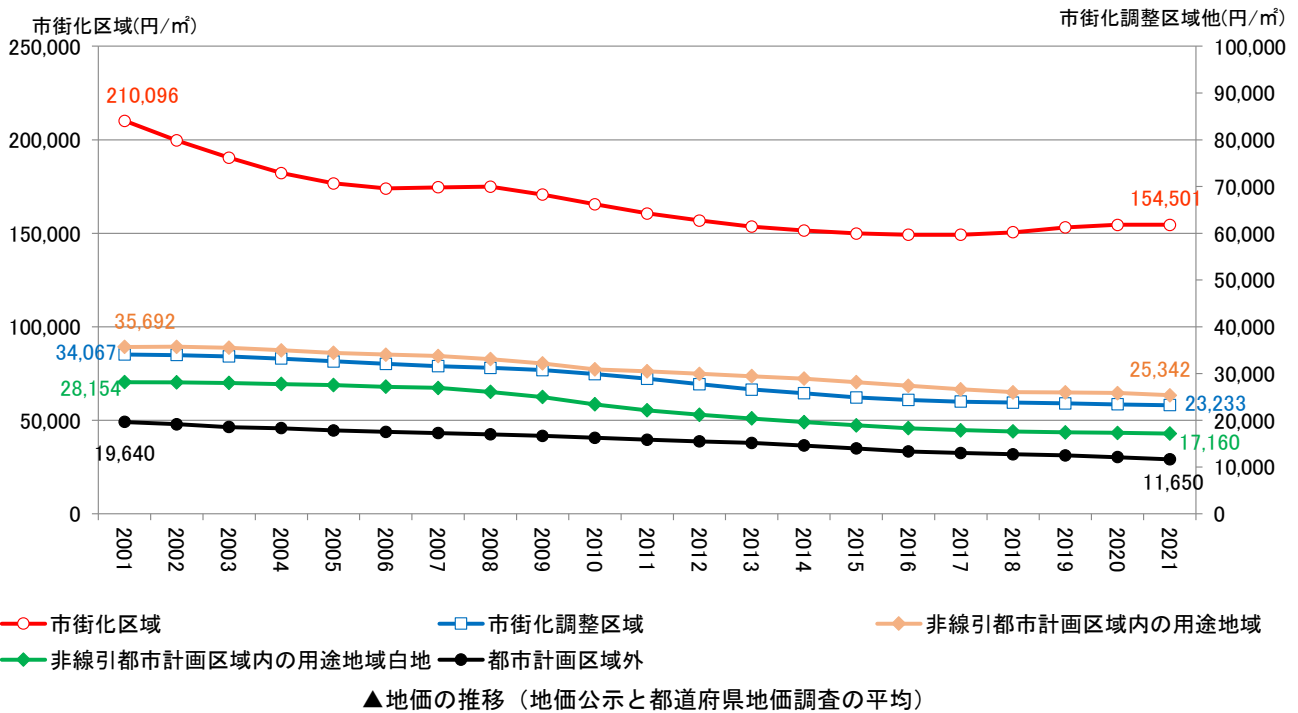
資料) 経済産業省HP（大規模小売店舗立地法（大店立地法）の届出状況について）

## (6) 地価

行政区域に占める市街化区域の割合は少ないものの、多くの税収があげられています。地価が全体的に下落傾向にあるなかで、市街化区域の地価は2015（平成27）年頃から横ばいで推移しています。



資料）鹿児島市資料

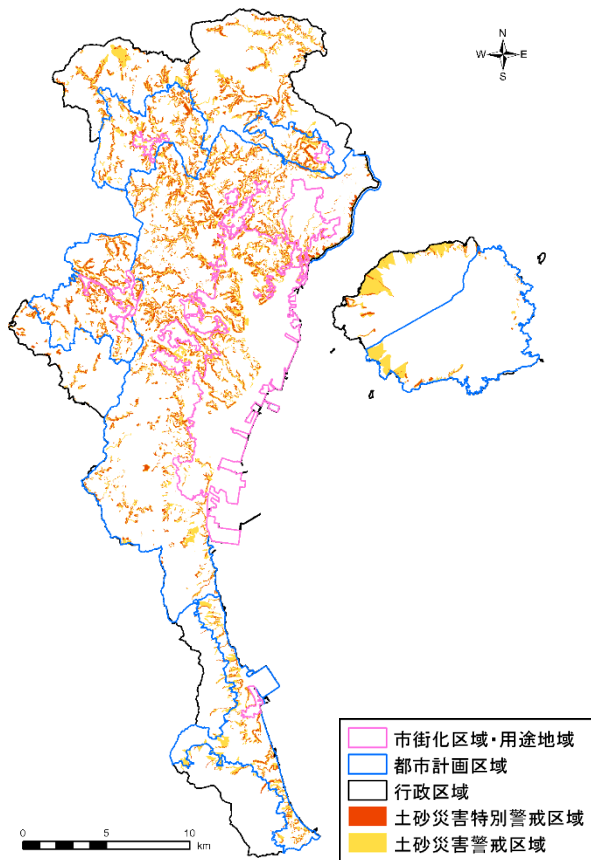


資料）地価公示、都道府県地価調査

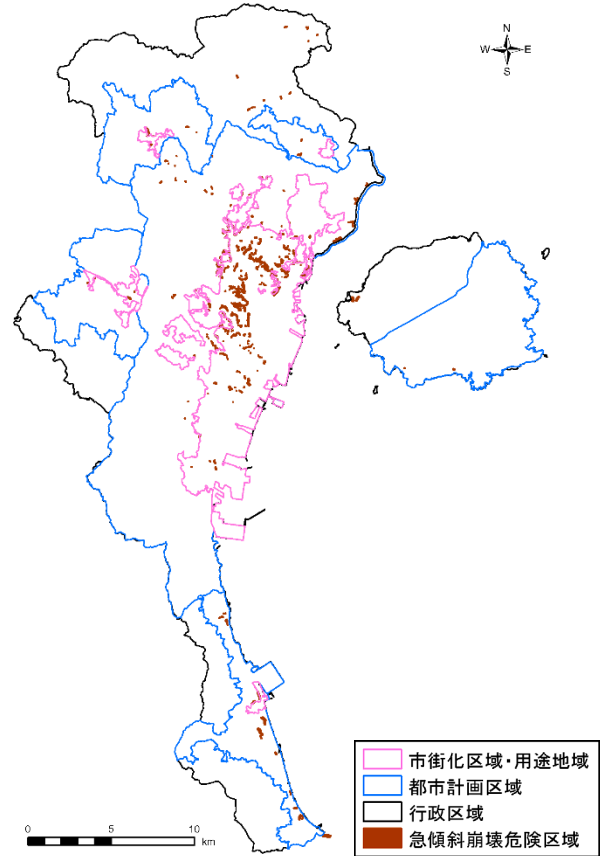
(7) 災害

市街化区域や用途地域等の居住区域にも災害のおそれのある区域が存在しています。

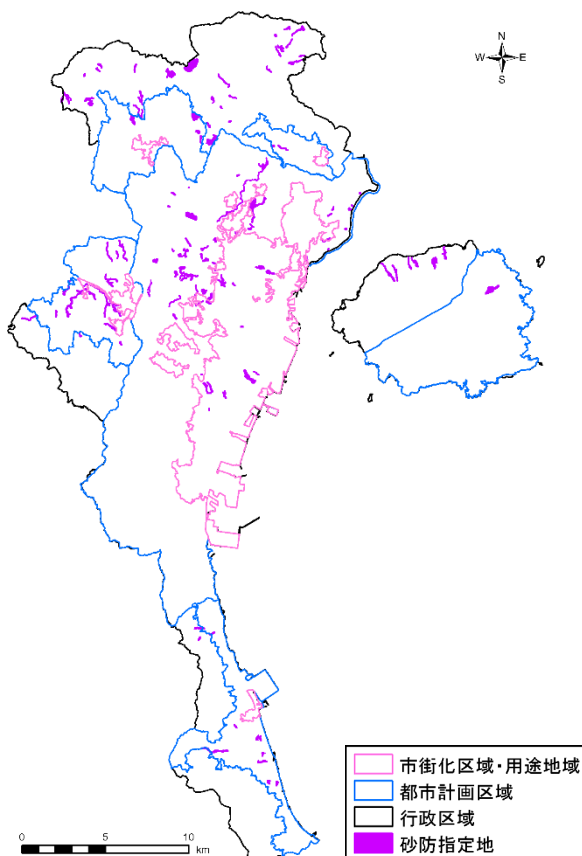
① 土砂災害特別警戒区域等



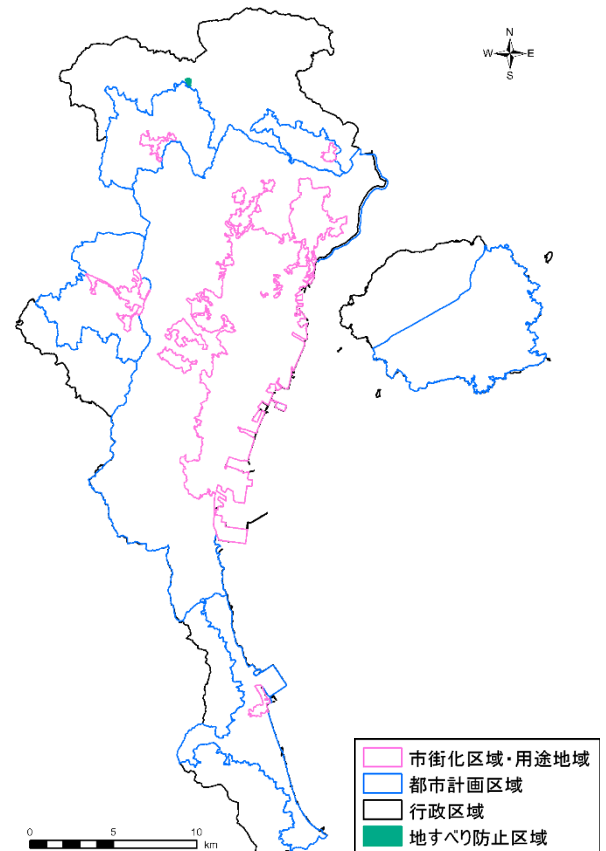
② 急傾斜地崩壊危険区域



③ 砂防指定地

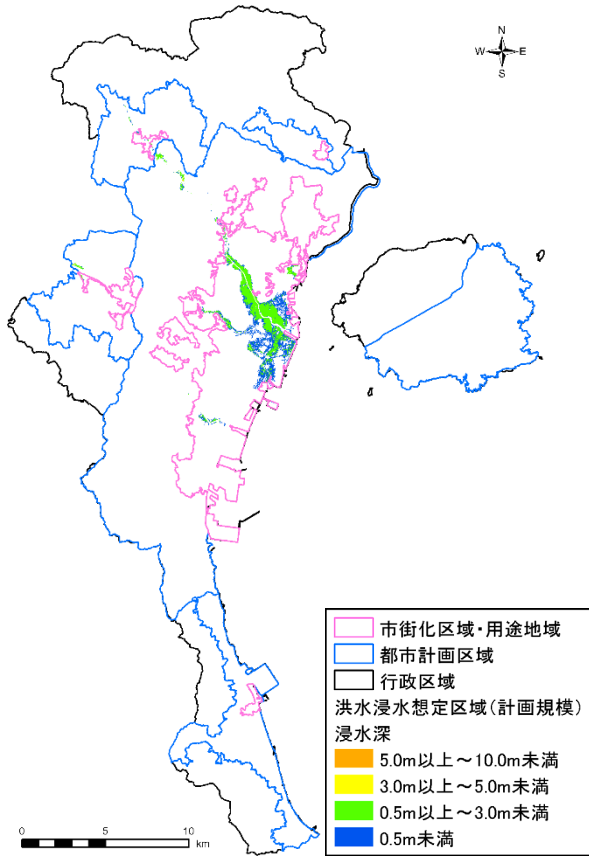


④ 地すべり防止区域

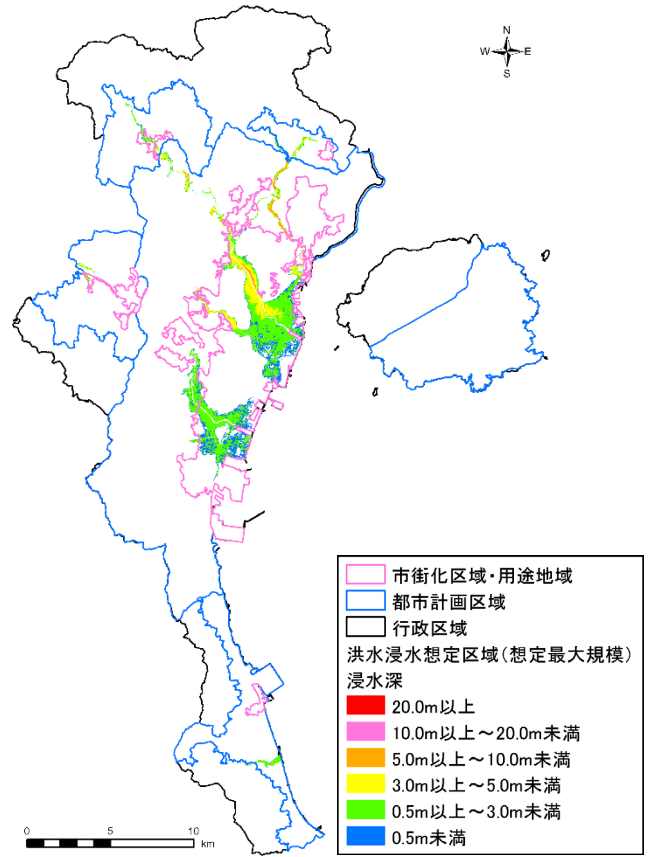


## ⑤ 洪水浸水想定

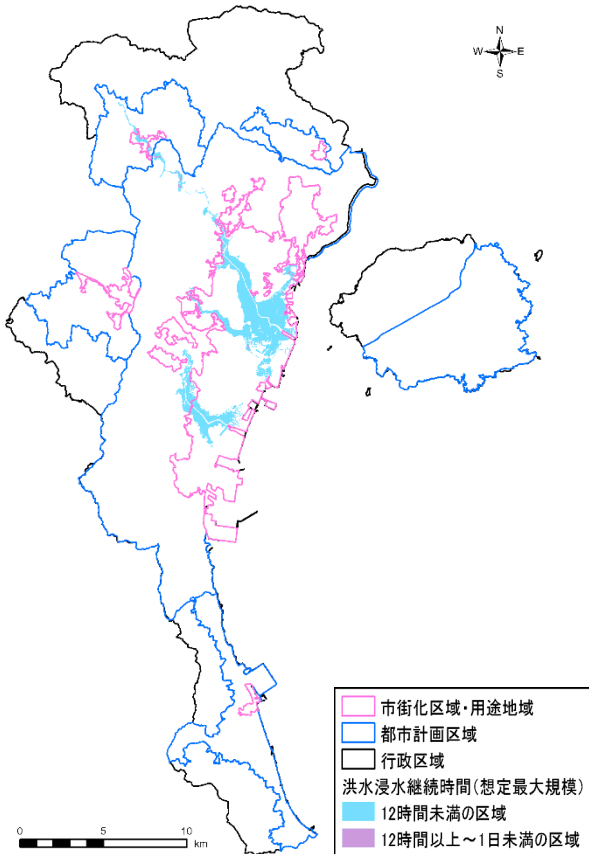
### 1) 浸水想定区域 (L1:計画規模)



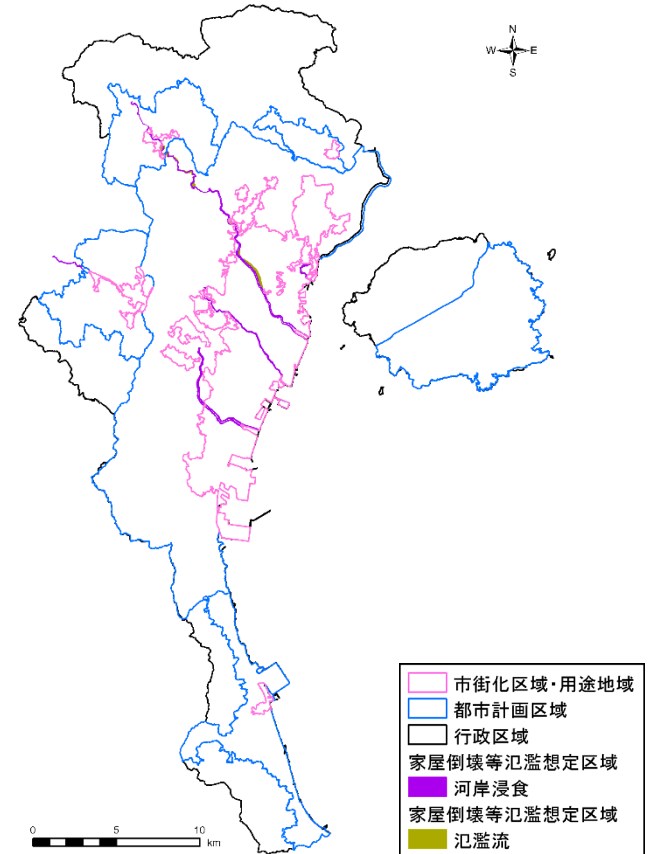
### 2) 浸水想定区域 (L2:想定最大規模)



### 3) 浸水継続時間 (L2:想定最大規模)

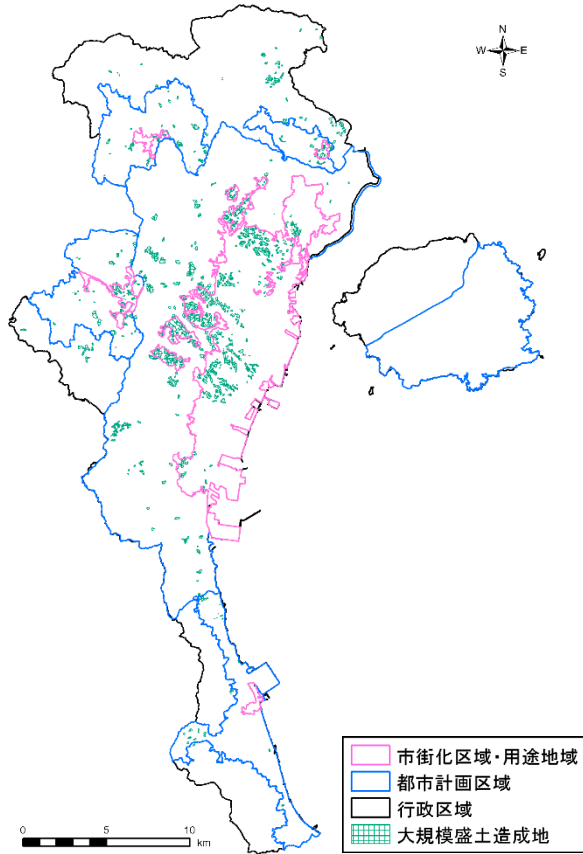


### 4) 家屋倒壊等氾濫想定区域 (L2:想定最大規模)

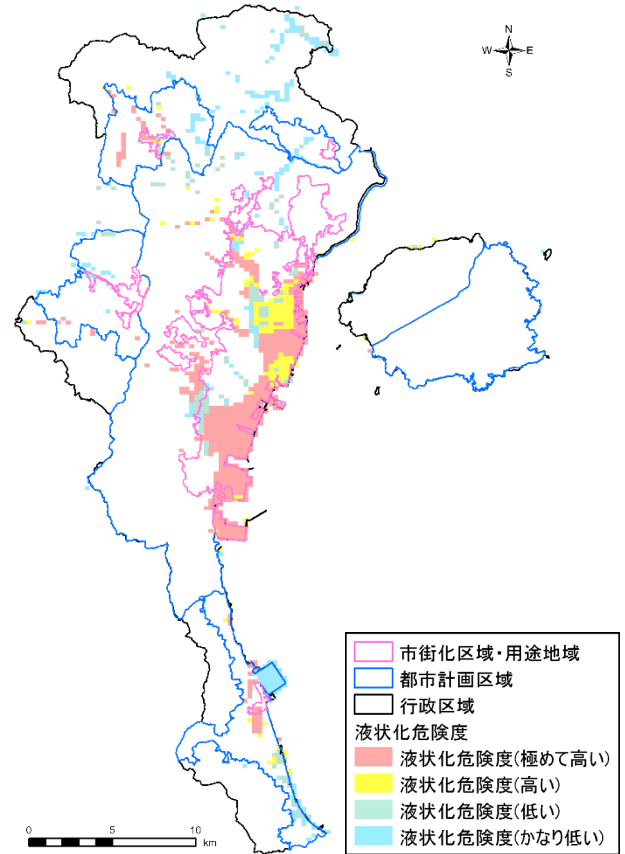




⑥ 大規模盛土造成地



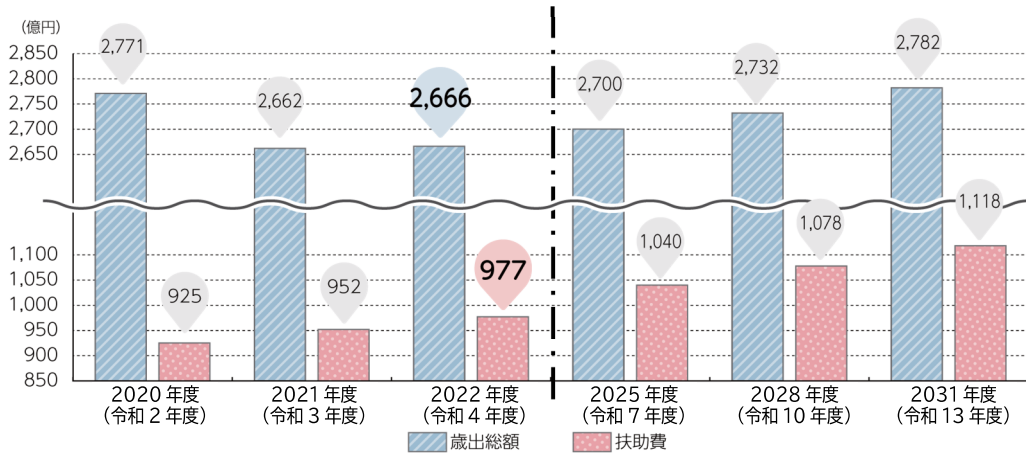
⑦ 液状化危険度



## (8) 財政

### ① 扶助費の状況・予測

社会保障費などの扶助費は今後も大きく増加すると予測されます。



※扶助費：子育て支援、高齢者の福祉や医療などに係る費用

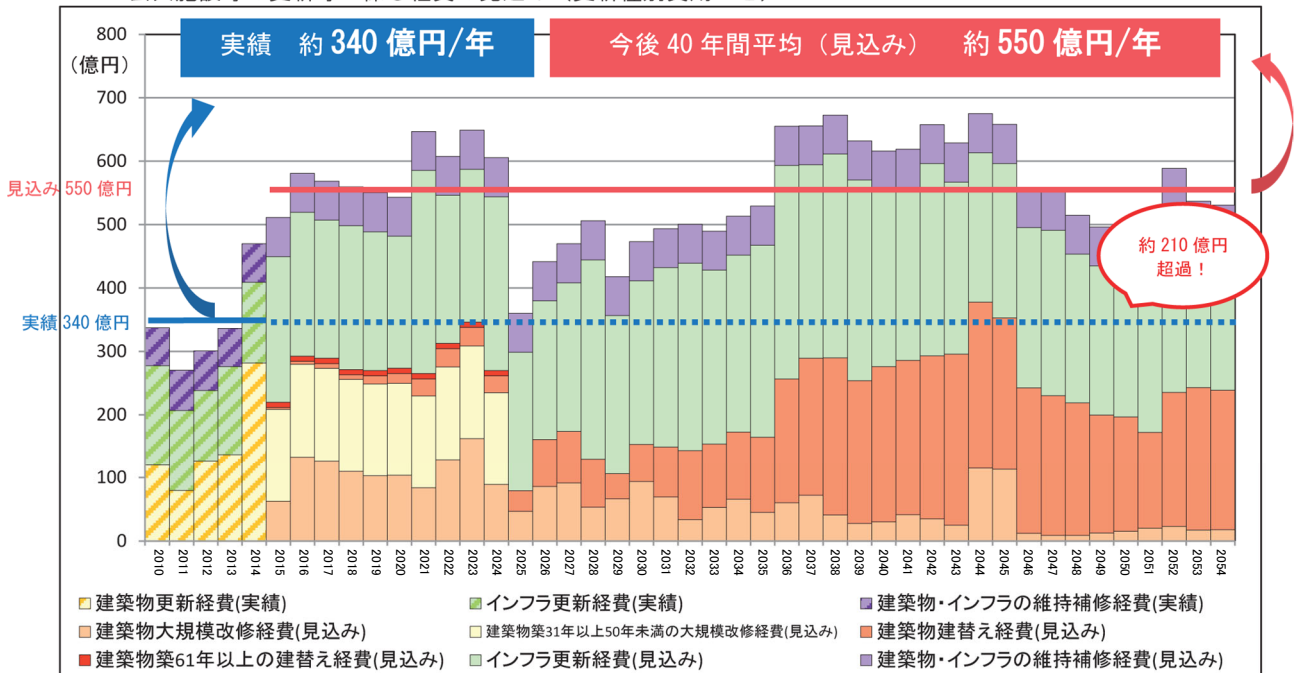
#### ▲ 一般会計歳出総額と扶助費の推移と将来予測

出典) 第六次鹿児島市総合計画

### ② 公共施設等の維持・更新費

公共施設等の維持・更新費は、今後、平均で年間約550億円が必要と試算されており、これまでの実績よりも大幅な増加が見込まれます。

公共施設等の更新等に係る経費の見込み (更新種別費用ごと)



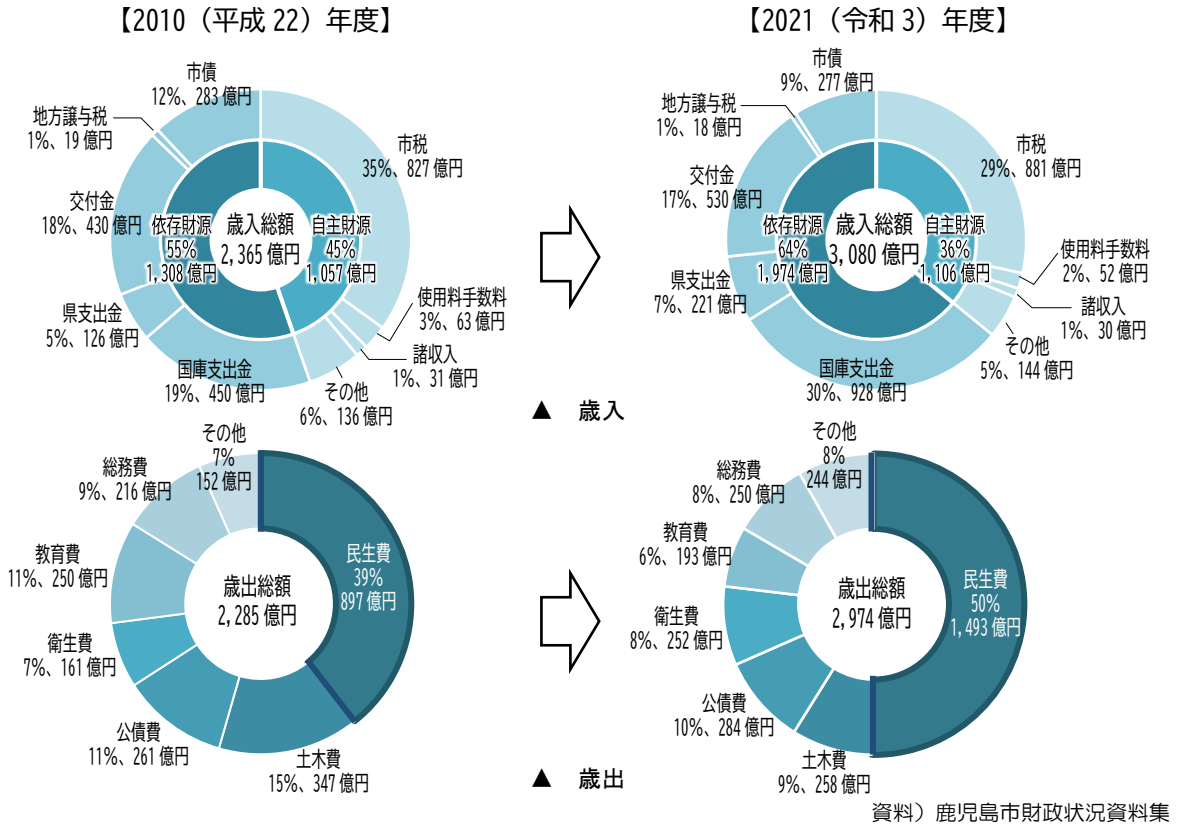
(備考) 総務省の公共施設等更新費用試算ソフトを用いて作成 (企業会計分も含む。)

#### ▲ 公共施設等の維持・更新費

出典) 鹿児島市公共施設等総合管理計画 (2016 (平成 28) 年 3 月策定 2022 (令和 4) 年 3 月改訂)

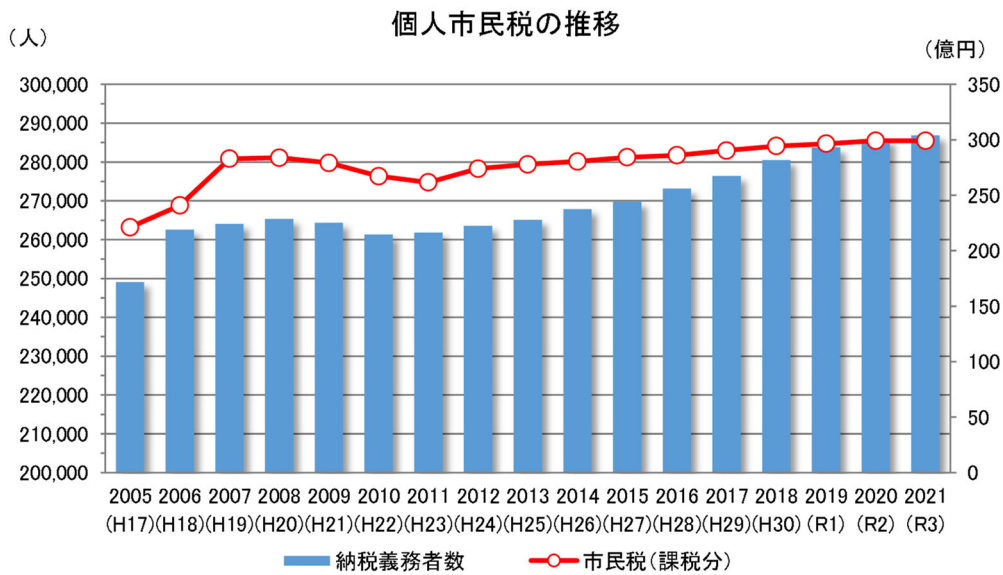
### ③ 歳入・歳出

近年の市の歳入に占める自主財源の割合は36%程度となっています。  
 歳出は、福祉に関連する民生費の占める割合が増加し、土木費が減少しています。



### ④ 歳入・歳出（市民税）

市民税（個人）の推移は、かつては納税義務者数の推移に概ね比例する傾向がありましたが、近年は納税義務者数の増加にも関わらず横ばいとなっています。今後、生産年齢人口の減少に伴い、市民税の減少が予想されます。



※2006（平成18）年より合併後の市民税

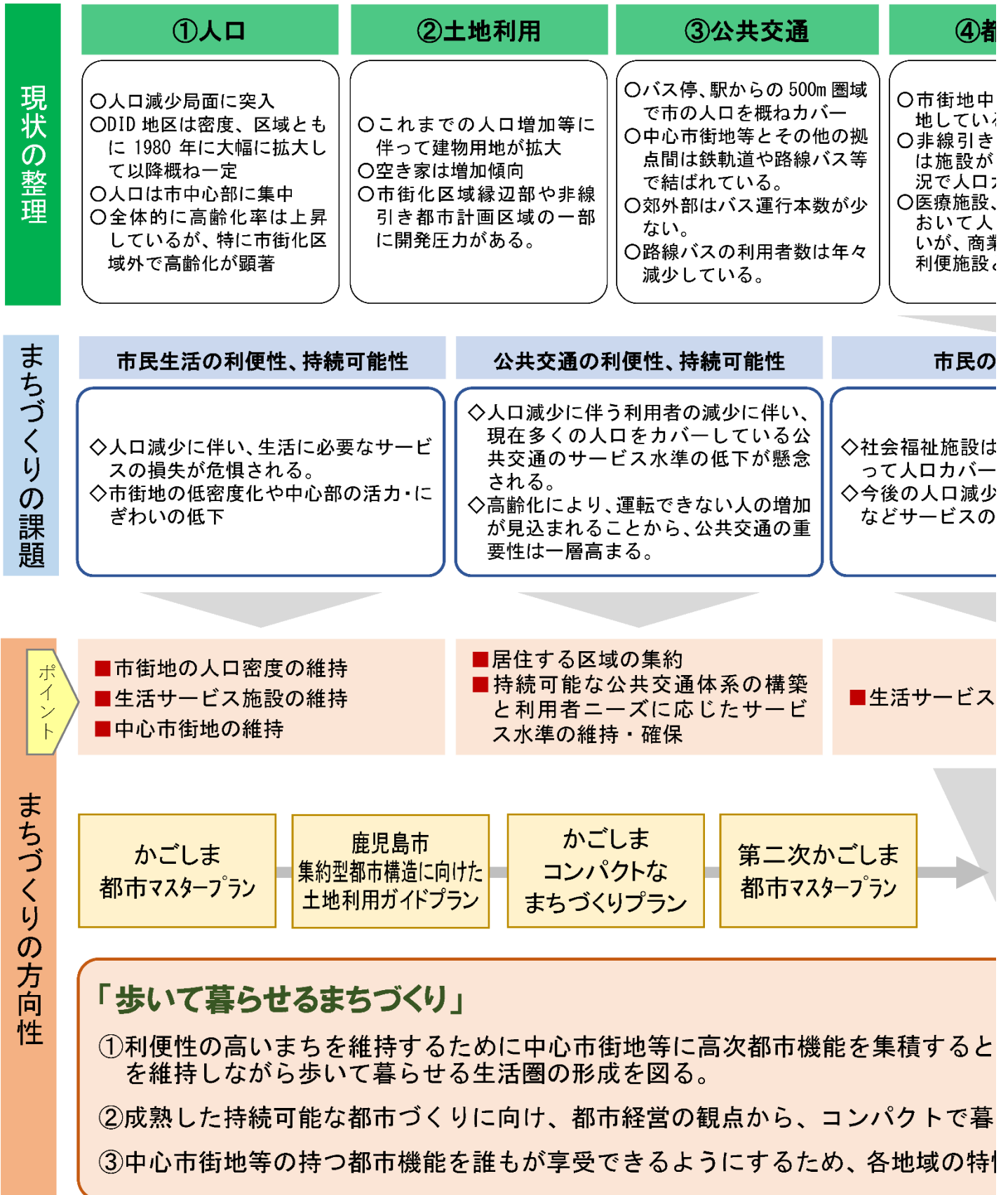
▲ 納税義務者数と市民税の推移

資料）鹿児島市資料



## 2.3 本市の課題とまちづくりの方向性

整理・分析した現状に対して、上位関連計画や人口等の将来動向を踏まえ、本市におけるまちづくりの課題について整理し、これらを踏まえて、「かごしまコンパクトなまちづくりプラン」のまちづくりの方向性を以下のように定めます。





市機能	⑤経済活動	⑥地価	⑦災害	⑧財政
<p>心部には概ね立る。都市計画区域で点在している状況カバー率は低い。社会福祉施設に人口カバー率は高い施設は他の生活と比較して低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小売・卸売販売額は直近では減少し、事業所、従業員数は減少傾向</li> <li>○大規模小売店は、毎年一定程度が立地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市街地における固定資産税は大きな割合を占める。</li> <li>○地価は全体的に下落傾向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現在の居住区域にも土砂災害や洪水浸水などの恐れのある区域が存在</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会保障などの扶助費は増加予測</li> <li>○公共施設の維持・更新費も大幅に増加見込み</li> <li>○自主財源比率は減少傾向</li> </ul>

福祉、健康	災害等に対する安全性	財政の健全性
<p>その種類や地域による状況に差がある。に伴い、施設の撤退低下が懸念される。</p>	<p>◇現在の居住区域にも土砂災害や洪水浸水などの恐れのある区域が存在しており、将来に渡ってもこうした地域に居住することを想定した場合、防災・減災対策を講じる必要がある。</p>	<p>◇道路や下水道などの社会基盤が今後老朽化し、必要な経費が増加していくことから財政状況は、さらに厳しさを増すことが想定される。</p> <p>◇人口減少と地価の低迷等により、歳入の減少が懸念される。</p>
<p>施設の維持</p>	<p>■安全な居住環境の形成</p>	<p>■行財政の健全化</p> <p>■市街地の人口密度の維持</p>

ともに、地域生活拠点や団地核を基本として、生活利便施設を集約し、一定の人口密度からしやすく安全な市街地の形成に向けた土地利用の促進を図る。

性に応じた公共交通を確保し、地域の拠点間を結ぶ公共交通ネットワークの形成を図る。



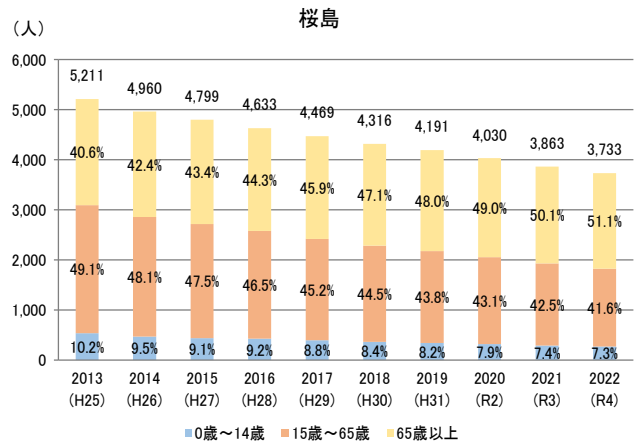
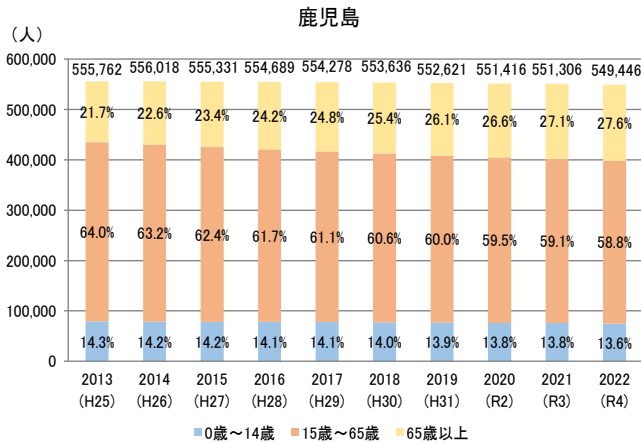
## 2.4 地域別の現状

### (1) 地域別の人口推移

#### ① 鹿児島地域・桜島地域

鹿児島地域の人口は2015（平成27）年以降は減少傾向にあり、老年（65歳以上）人口比率の上昇も見受けられます。

桜島地域の人口は減少傾向にあり、2022（令和4）年の老年人口比率は51.1%と全市で最も高い状況です。



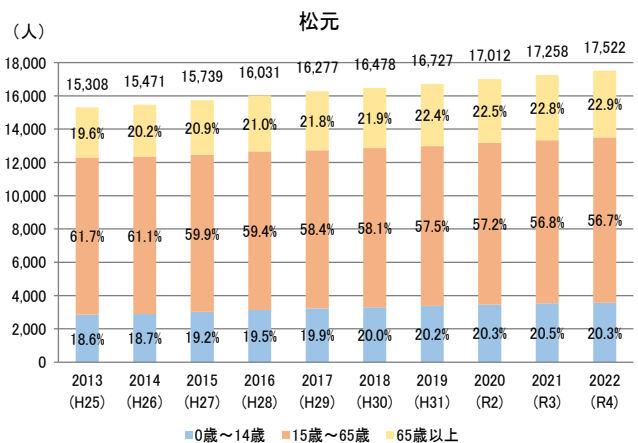
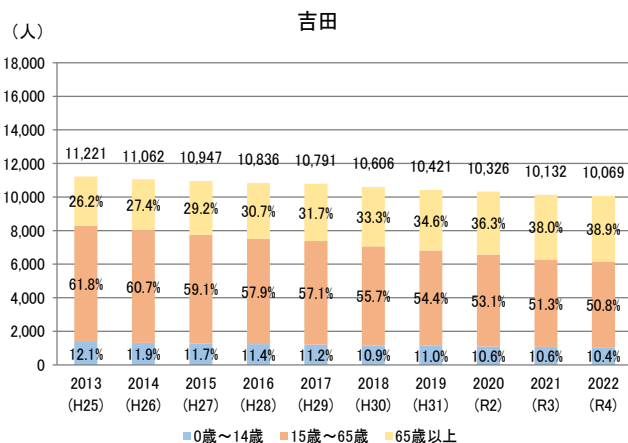
▲地域別の人口動向

資料) 鹿児島市住民基本台帳 (各年3月末時点)

#### ② 吉田地域・松元地域

吉田地域の人口は減少傾向にあり、2022（令和4）年の老年人口比率は38.9%と桜島地域、郡山地域、喜入地域に次いで高い状況です。

松元地域の人口は増加傾向にあり、2022（令和4）年の老年人口が22.9%と全市で最も低く、年少（0歳～14歳）人口比率が20.3%と全市で最も高くなっています。



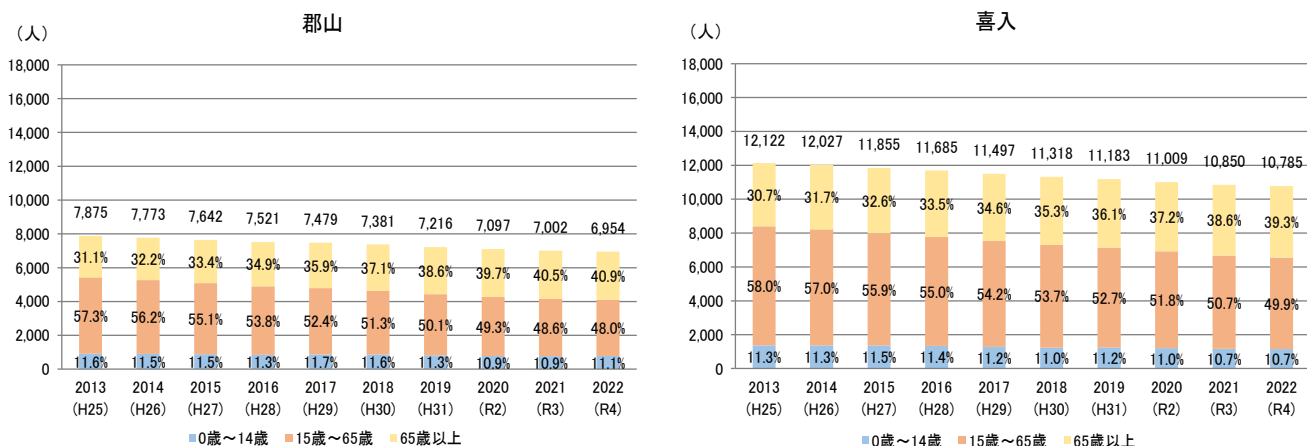
▲地域別の人口動向

資料) 鹿児島市住民基本台帳 (各年3月末時点)

### ③ 郡山地域・喜入地域

郡山地域の人口は減少傾向にあり、2022（令和 4）年の老年人口比率は 40.9%と桜島地域に次いで高い状況です。

喜入地域の人口は減少傾向にあり、2022（令和 4）年の老年人口比率は 39.3%と桜島地域、郡山地域に次いで高くなっています。



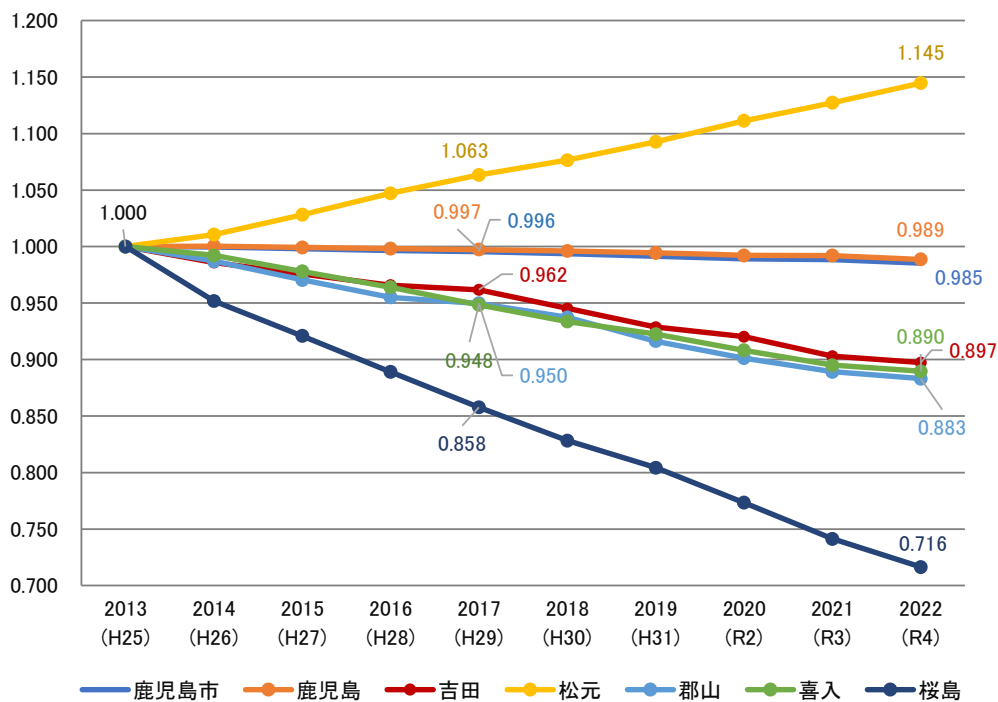
▲地域別の人口動向

資料) 鹿児島市住民基本台帳 (各年 3 月末時点)

### ④市域全域

松元地域の人口増加が顕著である一方、その他の地域は人口が減少しています。桜島地域は人口減少が著しい状況です。

鹿児島 人口増減率(2013年=1.0)

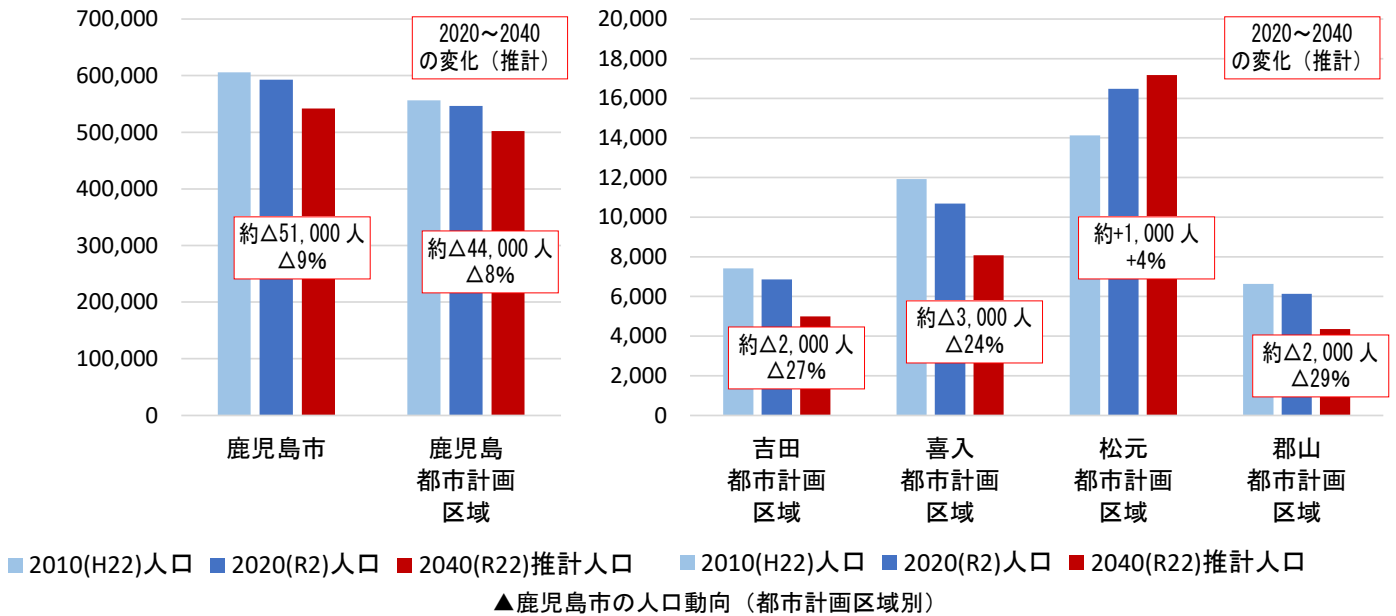


▲地域別の人口動向

資料) 鹿児島市住民基本台帳 (各年 3 月末時点)

## (2) 都市計画区域別の人口推移

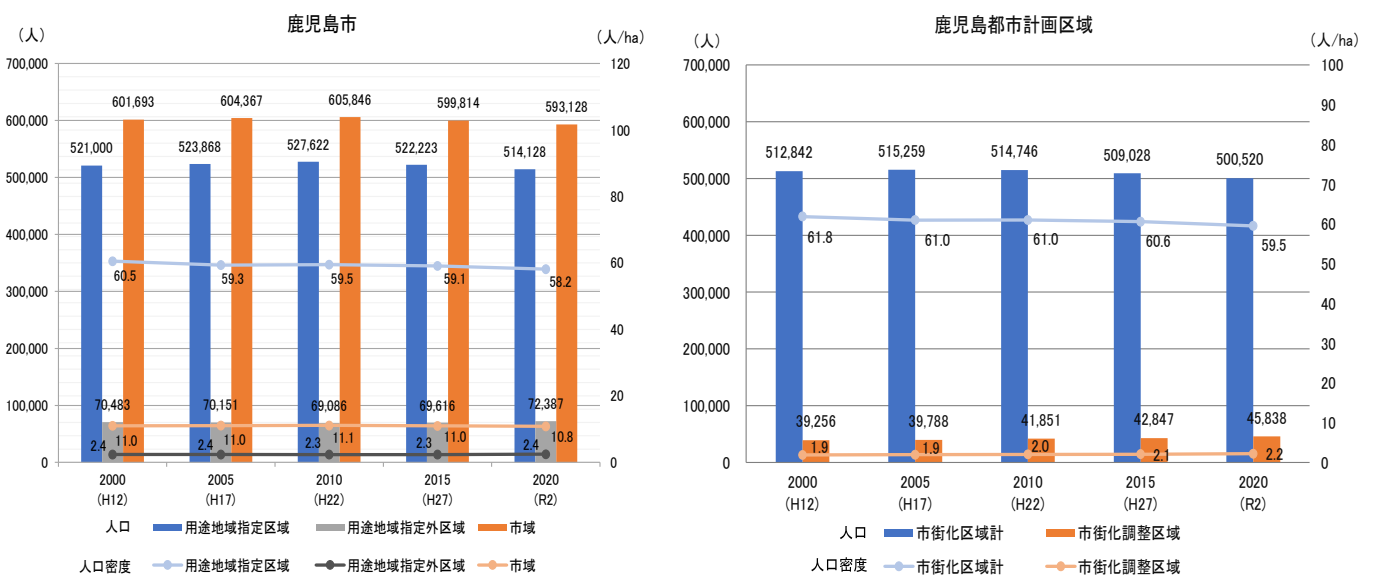
2020（令和 2）年から 2040（令和 22）年までの人口推移を都市計画区域別にみると、松元都市計画区域で約 1 千人の増加が見込まれる一方、鹿児島都市計画区域は約 4 万 4 千人、吉田・喜入・郡山都市計画区域で約 2～3 千人の減少が見込まれています。なお、吉田・喜入・郡山都市計画区域で見込まれている人口の減少率は、20%以上になっています。



資料）国勢調査及び国勢調査に基づく推計値

## ① 鹿児島市域全域・鹿児島都市計画区域

鹿児島都市計画区域は、2010（平成 22）年以降、市街化区域内の人口が減少する一方、市街化調整区域内の人口が増加する傾向にあります。



▲人口と人口密度の推移（都市計画区域別）

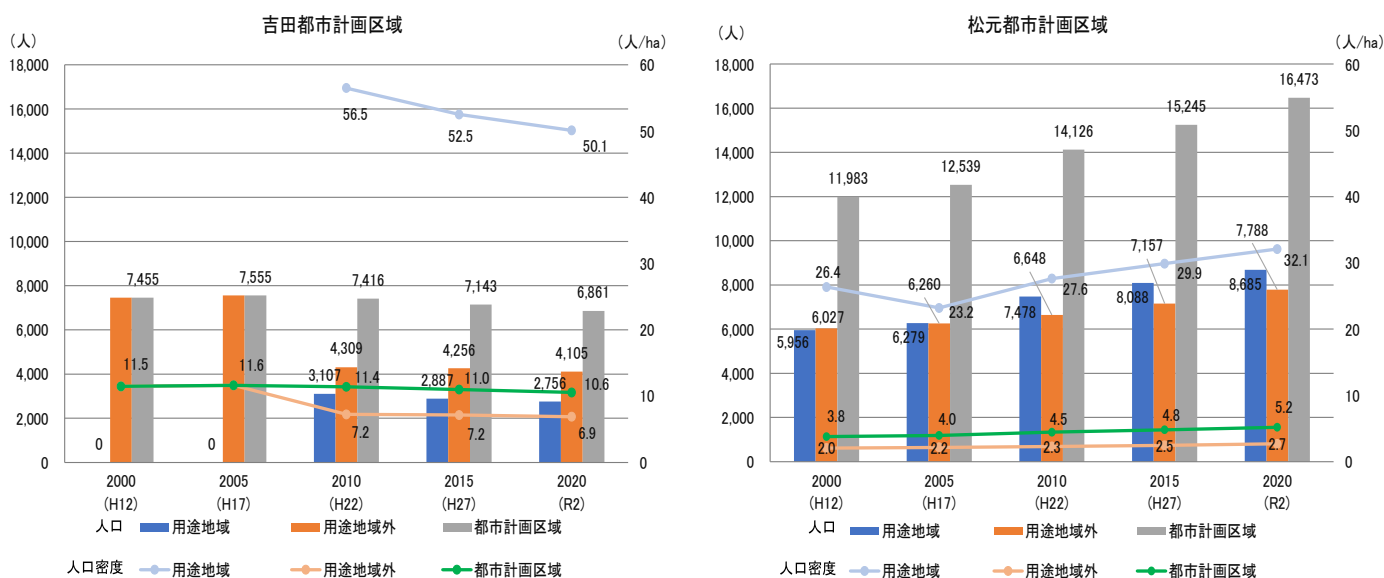
資料）国勢調査、都市計画基礎調査



## ②吉田都市計画区域・松元都市計画区域

吉田都市計画区域は、用途地域内人口密度は高いですが、都市計画区域内の人口に占める割合は低い状況です。

松元都市計画区域は、人口が増加しており、半数以上の人用途地域内に居住しています。

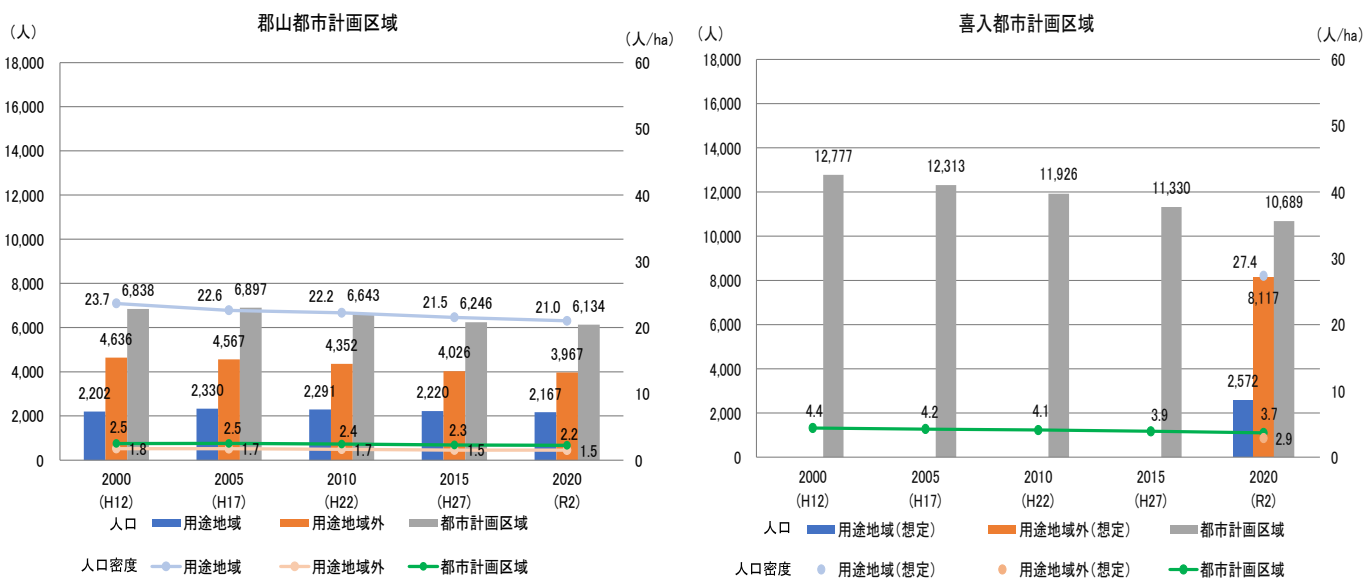


▲人口と人口密度の推移（都市計画区域別）

資料）都市計画基礎調査

## ③郡山都市計画区域・喜入都市計画区域

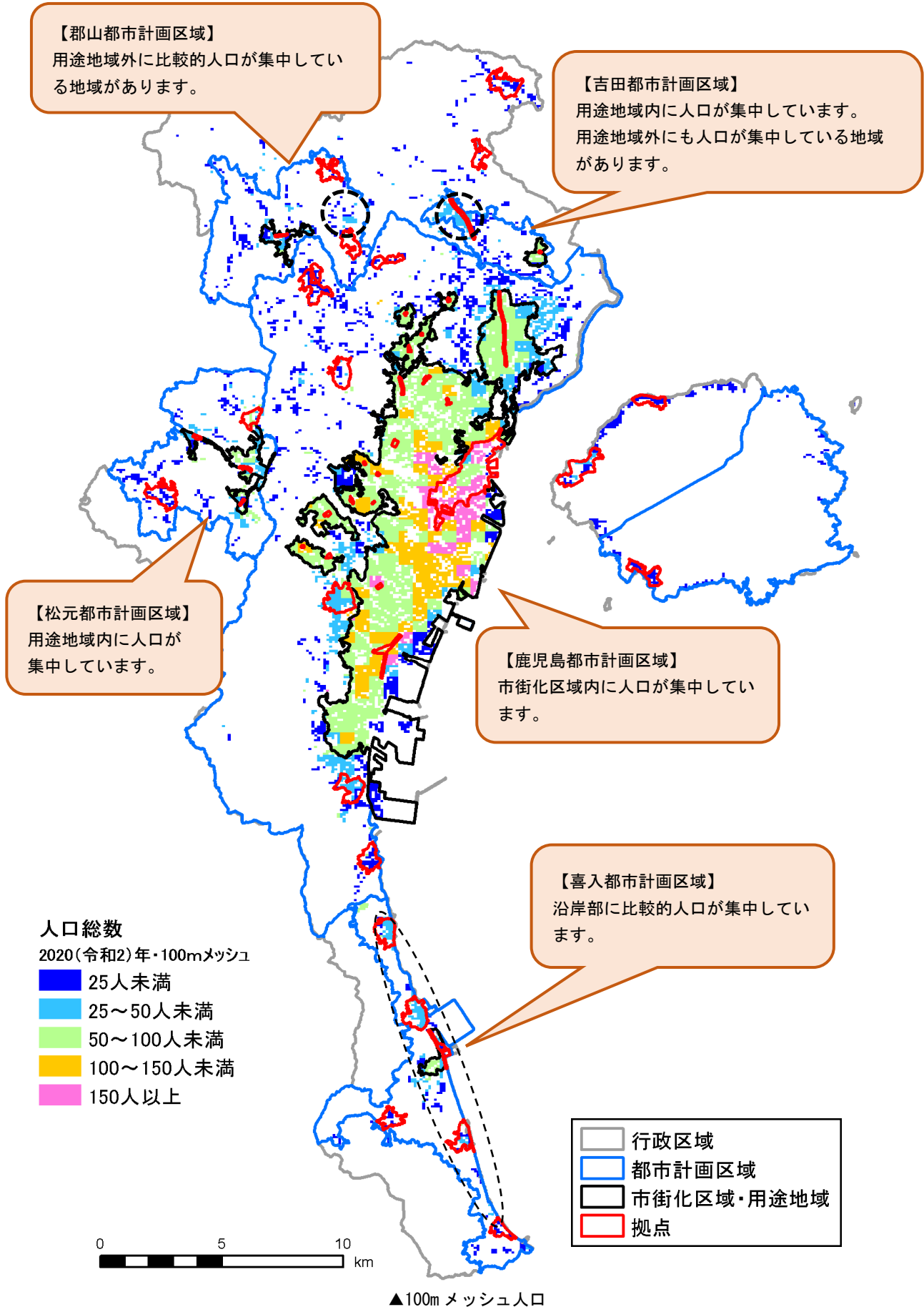
郡山都市計画区域・喜入都市計画区域は、用途地域内（喜入都市計画区域は2023（令和5）年度指定（予定）の人口の割合は低く、人口密度もさほど高くない状況です。



▲人口と人口密度の推移（都市計画区域別）

資料）都市計画基礎調査

### (3) 都市計画区域別の人口

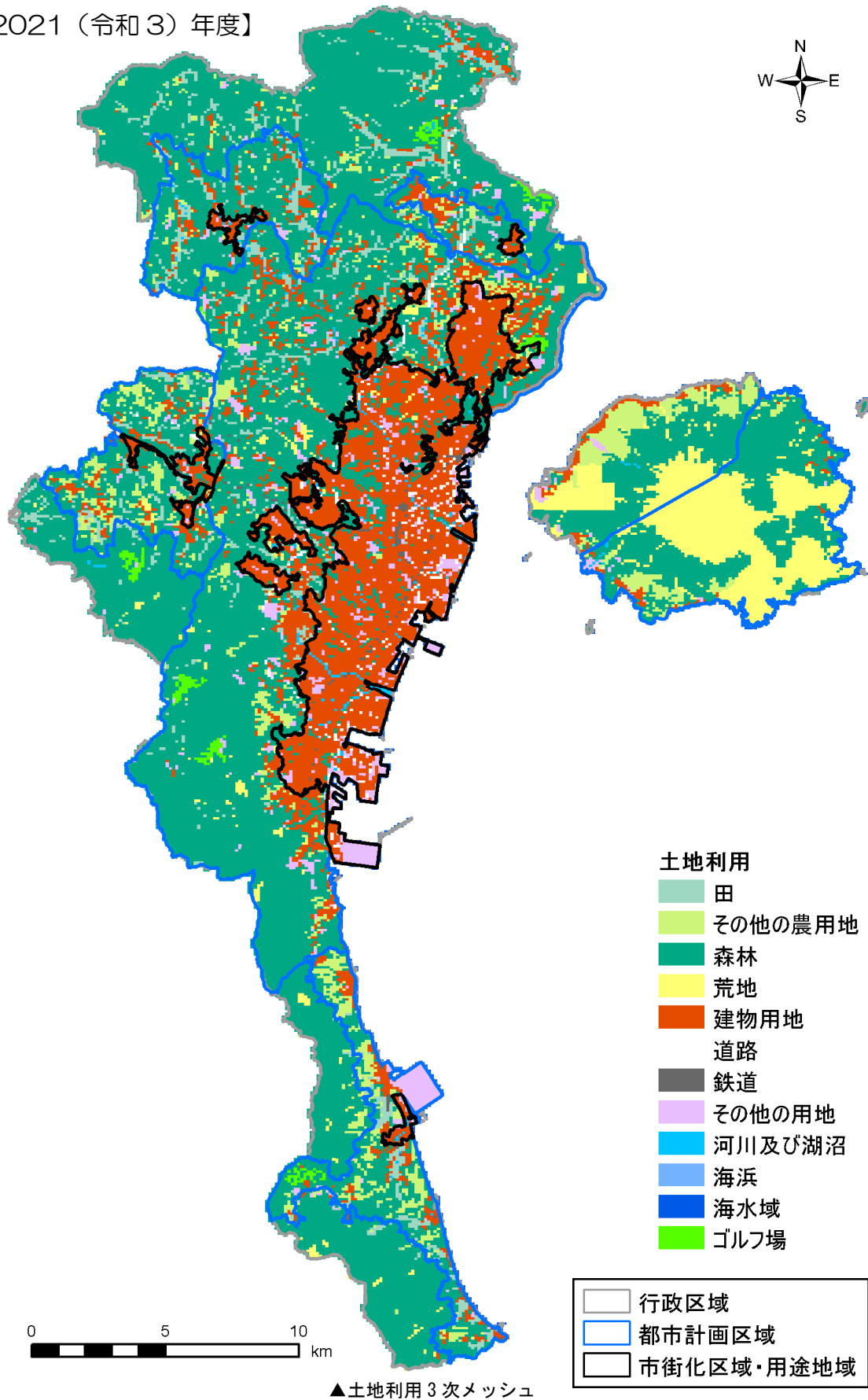


資料) 国勢調査 地域統計メッシュを加工して作成

#### (4) 土地利用

人口の状況と比例して市街地（建物用地）が広がっています。

【2021（令和3）年度】

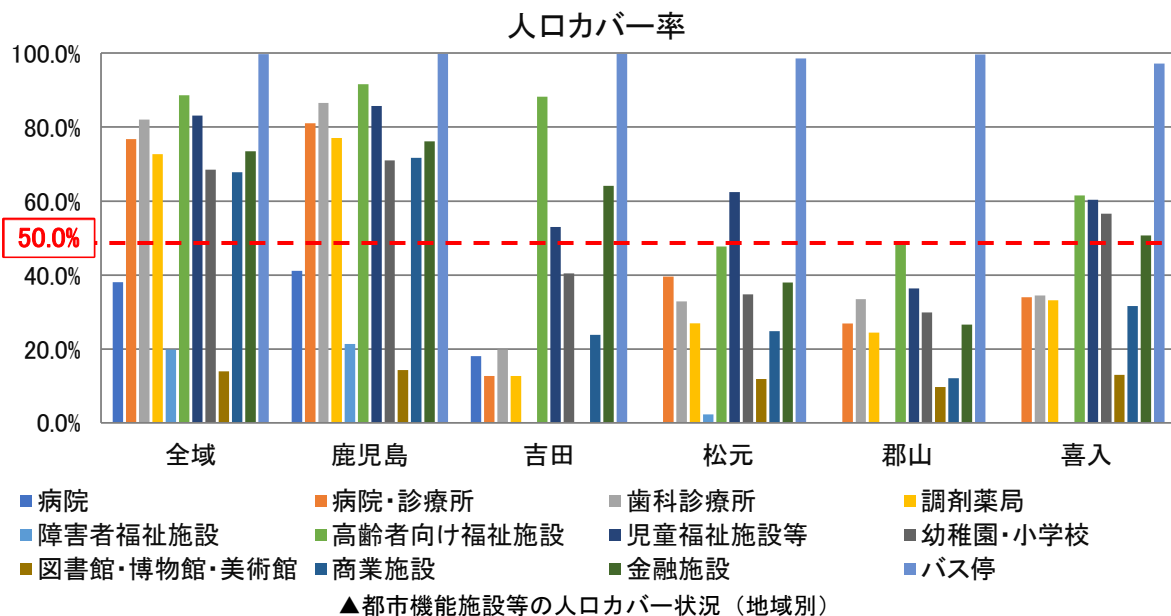


資料) 国土数値情報

## (5) 都市機能施設等の人口カバー率

### ① 都市計画区域ごと

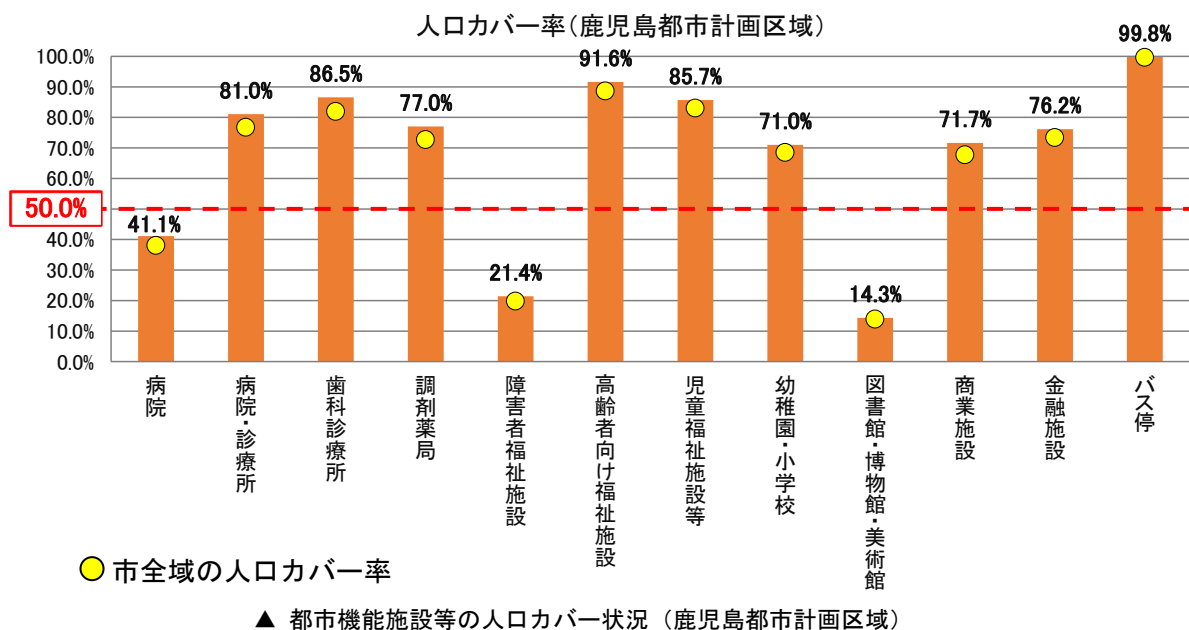
人口が集中している鹿児島都市計画区域の人口カバー率が高く、一方で非線引き都市計画区域のカバー率は一部の施設を除いては 50%以下となっています。バス停のカバー率は全ての地域で高くなっています。



※各施設から半径 500m 圏（徒歩圏）を基本に、2020（令和 2）年国勢調査 500m メッシュを基に作成した 100m メッシュより算出。  
 ※メッシュの重心が各エリアに含まれるものを対象として集計。  
 ※分母は各区域ごとの人口。

### ② 鹿児島都市計画区域

全ての施設において、本市全体の人口カバー率よりも高い状況であり、施設が集積されているといえます。病院、障害者福祉施設、図書館・博物館・美術館のカバー率は市の状況と同様に低くなっています。

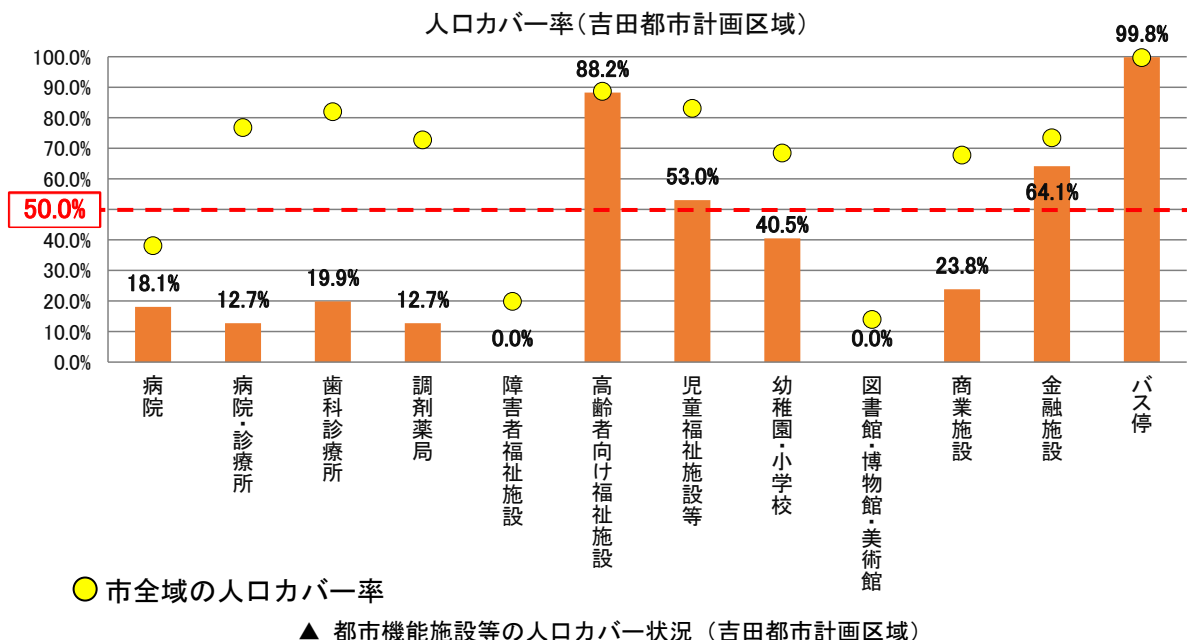


※各施設から半径 500m 圏（徒歩圏）を基本に、2020（令和 2）年国勢調査 500m メッシュを基に作成した 100m メッシュより算出。  
 ※メッシュの重心が各エリアに含まれるものを対象として集計。  
 ※カバー率の算出に用いる分母は鹿児島都市計画区域の人口（メッシュの重心が各エリアに含まれるものを対象として集計）。

### ③ 吉田都市計画区域

高齢者向け福祉施設及び金融施設のカバー率が比較的高いものの、それ以外の施設については、人口カバー率が50%を割り込んでいる施設が多い状況です。

また、公民館図書室が都市計画区域外にあるものの、本区域内には図書館・博物館・美術館はありません。

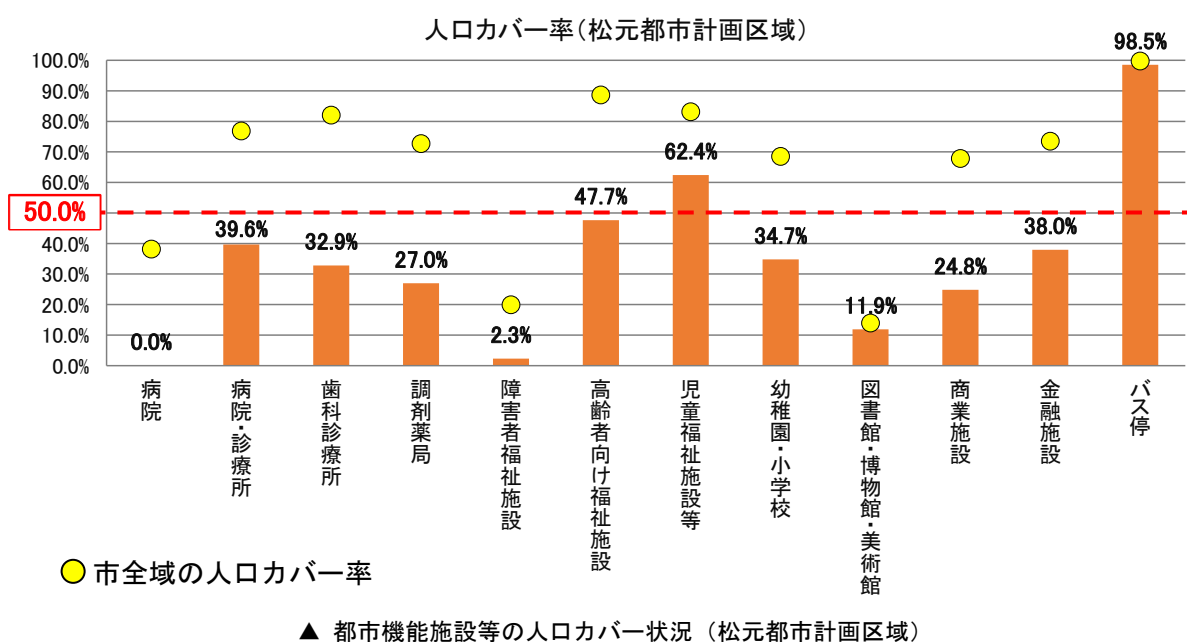


※各施設から半径 500m 圏 (徒歩圏) を基本に、2020 (令和 2) 年国勢調査 500m メッシュを基に作成した 100m メッシュより算出。  
※メッシュの重心が各エリアに含まれるものを対象として集計。

※カバー率の算出に用いる分母は吉田都市計画区域の人口 (メッシュの重心が各エリアに含まれるものを対象として集計)。

### ④ 松元都市計画区域

バス停及び児童福祉施設等を除く施設において人口カバー率が 50%を割り込んでおり、病院は無く、年少人口が増加している地域でありながら、幼稚園・小学校の人口カバー率が比較的低いという状況です。



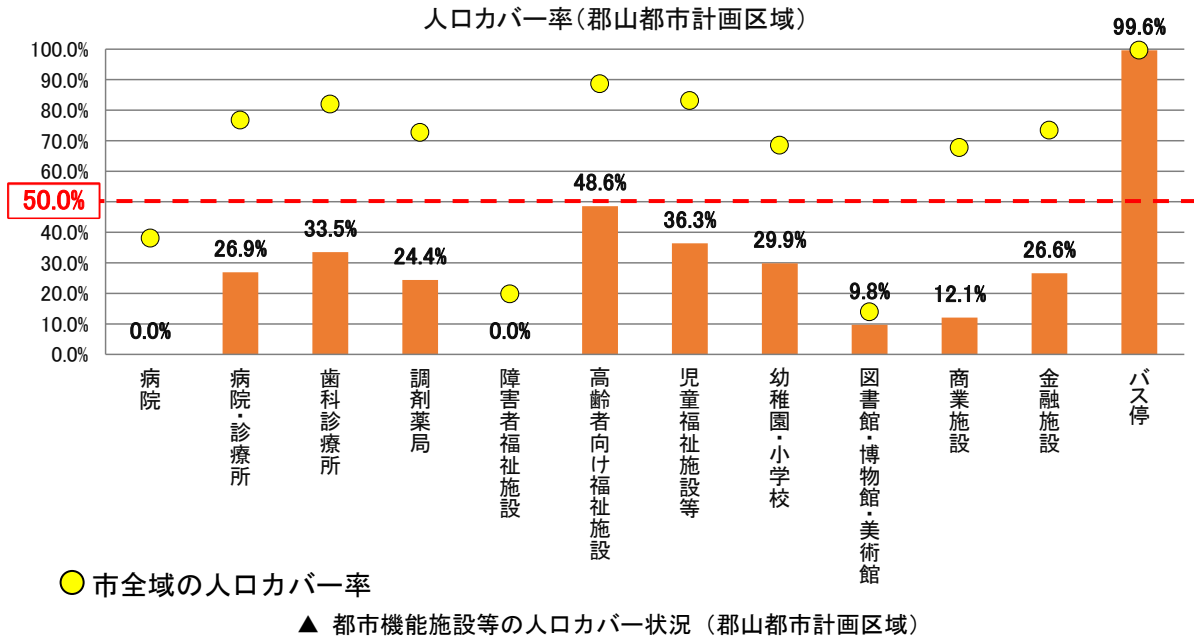
※各施設から半径 500m 圏 (徒歩圏) を基本に、2020 (令和 2) 年国勢調査 500m メッシュを基に作成した 100m メッシュより算出。  
※メッシュの重心が各エリアに含まれるものを対象として集計。

※カバー率の算出に用いる分母は松元都市計画区域の人口 (メッシュの重心が各エリアに含まれるものを対象として集計)。



### ⑤ 郡山都市計画区域

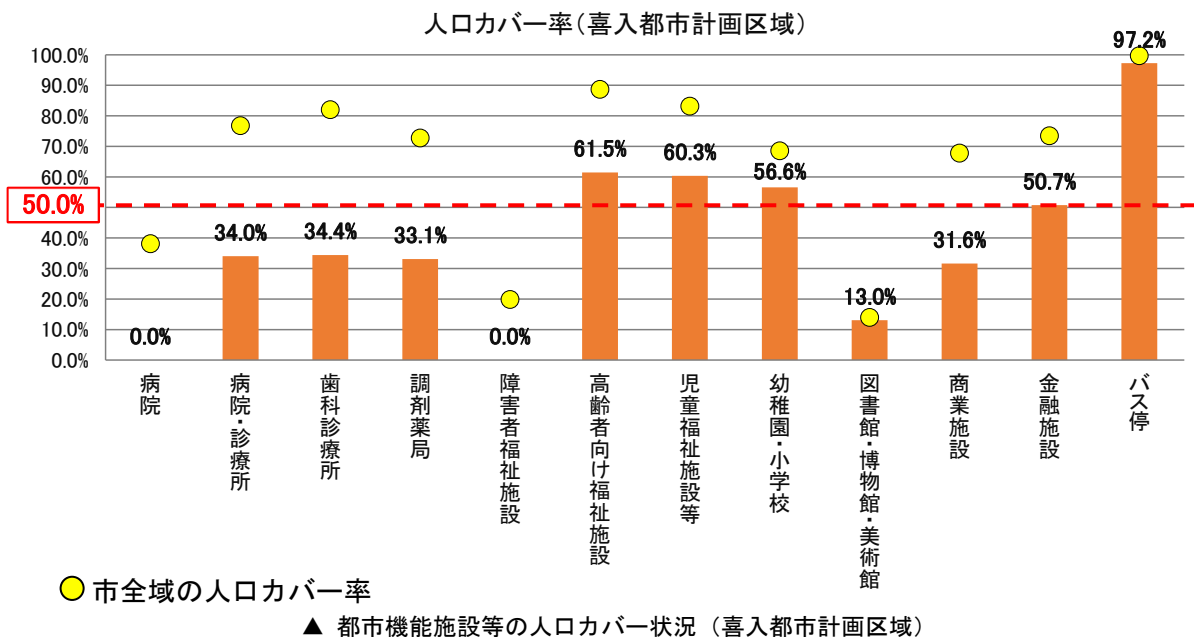
バス停を除くすべての施設において人口カバー率が 50%を割り込んでおり、病院は無く、診療所は有るものの人口カバー率が低い状況です。



※各施設から半径 500m 圏(徒歩圏)を基本に、2020(令和 2)年国勢調査 500m メッシュを基に作成した 100m メッシュより算出。  
 ※メッシュの重心が各エリアに含まれるものを対象として集計。  
 ※カバー率の算出に用いる分母は郡山都市計画区域の人口(メッシュの重心が各エリアに含まれるものを対象として集計)。

### ⑥ 喜入都市計画区域

高齢者向け福祉施設、児童福祉施設等、幼稚園・小学校・金融施設の人口カバー率が比較的高いものの、病院はなく、それ以外の施設については人口カバー率が 50%を割り込んでいる状況です。



※各施設から半径 500m 圏(徒歩圏)を基本に、2020(令和 2)年国勢調査 500m メッシュを基に作成した 100m メッシュより算出。  
 ※メッシュの重心が各エリアに含まれるものを対象として集計。  
 ※カバー率の算出に用いる分母は喜入都市計画区域の人口(メッシュの重心が各エリアに含まれるものを対象として集計)。

## 2.5 地域別の課題とまちづくりの基本的方針

整理・分析した現状に対して、地域別のまちづくりの課題について整理し、これらと全市のまちづくりの方向性を踏まえて、「かごしまコンパクトなまちづくりプラン」の地域別のまちづくりの基本的方針を以下のように定めます。

区域		鹿児島都市計画区域	吉田都市計画区域
地域の現状	人口	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口は 2010（平成 22）年頃から減少が始まり、今後も減少の予測</li> <li>人口が集中</li> <li>市街化区域内の人口密度は約 60 人/ha</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口は減少傾向</li> <li>用途地域内の人口密度は 40 人/ha 以上</li> </ul>
	土地利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>市街地が拡大</li> <li>市街化区域縁辺部の一部に開発圧力が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市街地が拡大</li> <li>用途地域外でも住宅建築等が見られる。</li> </ul>
	公共交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>市街地中心部はバスの運行本数が多く、加えて軌道系交通が通っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バス交通はネットワーク化されているものの運行本数は少ない。</li> </ul>
	都市機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市施設のカバー率が概ね高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者向け福祉施設及び金融施設のカバー率が比較的高い。</li> <li>それ以外については、人口カバー率が 50%を割り込んでいる施設が多い（区域外に公民館図書室は有）。</li> </ul>
	地価	<ul style="list-style-type: none"> <li>市街化区域の地価は、近年は概ね横ばい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地価が下落傾向</li> </ul>
	災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>市街化区域内や用途地域内などに災害の恐れのある地域が存在する。</li> </ul>	
現状を踏まえた課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>市街地の低密度化や中心市街地の活力低下</li> <li>都市機能施設は一定の充実をしているが、今後は人口減少に伴い、人口規模に応じた適正な配置が必要</li> <li>公共交通サービス水準の低下が懸念</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少が顕著であり、今後のさらなる人口減少に伴い、都市機能施設の撤退、公共交通サービス水準の低下が懸念</li> </ul>
<b>地域別のまちづくりの基本的方針</b> <small>※番号は、本市のまちづくりの方向性との対比を示す。</small>		<ul style="list-style-type: none"> <li>中心市街地等には高次都市機能を集積①</li> <li>広域的な拠点の形成を図るとともに、利便性の高い居住環境の形成を図る。①②</li> <li>鉄道や市電、バスによる公共交通体系の構築を図る。③</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大原地域を中心に都市機能を集約①②</li> <li>既存集落を中心に生活に必要な施設の立地を維持・誘導①②</li> <li>バスを中心に拠点間や中心市街地との公共交通ネットワークの維持・確保を図る。③</li> </ul>

### 本市のまちづくりの方向性

#### 「歩いて暮らせるまちづくり」

- ①利便性の高いまちを維持するために中心市街地等に高次都市機能を集積するとを維持しながら歩いて暮らせる生活圏の形成を図る。
- ②成熟した持続可能な都市づくりに向け、都市経営の観点から、コンパクトで暮
- ③中心市街地等の持つ都市機能を誰もが享受できるようにするため、各地域の特

松元都市計画区域	郡山都市計画区域	喜入都市計画区域
<ul style="list-style-type: none"> <li>人口増加が顕著</li> <li>将来の人口減少も他区域と比べて緩やかと予測</li> <li>用途地域内の人口密度は 40 人/ha 以下であるが用途地域外と比較すると高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口は減少傾向</li> <li>高齢化率が最も高い。</li> <li>用途地域内の人口密度は 40 人/ha 以下であるが用途地域外と比較すると高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口は減少傾向</li> <li>区域内の人口密度は 40 人/ha 以下</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>市街地が拡大</li> <li>用途地域外でも住宅建築等が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市街地が拡大</li> <li>用途地域外でも住宅建築等が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市街地が拡大</li> <li>沿岸部で住宅建築等が見られる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>バス交通はネットワーク化されているものの運行本数は少ない。</li> <li>駅のカバー率が比較的高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バス交通はネットワーク化されているものの運行本数は少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バス交通はネットワーク化されているものの運行本数は少ない。</li> <li>駅のカバー率が比較的高い。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの施設において人口カバー率が50%を割り込んでおり、病院は無い（診療所は有）。</li> <li>文化施設として公民館図書室が有る</li> <li>年少人口が増加している区域でありながら、幼稚園・小学校の人口カバー率が比較的低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの施設において人口カバー率が50%を割り込んでおり、病院は無い。</li> <li>診療所は有るが、人口カバー率が30%程度である。</li> <li>文化施設として公民館図書室が有る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者向け福祉施設、児童福祉施設等、幼稚園・小学校、の人口カバー率が比較的高い。</li> <li>それ以外については、人口カバー率が50%を割り込んでおり、病院は無い（診療所は有）。</li> <li>文化施設として公民館図書室が有る。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>地価が下落傾向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地価が下落傾向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地価が下落傾向</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>他区域に比べ、人口増加がある一方、都市機能施設のカバー率が低く、今後の人口減少によって、都市機能施設の撤退、公共交通サービス水準の低下が懸念</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他区域に比べ、区域内人口が最も少なく、高齢化率も最も高い。人口減少が顕著であり、今後のさらなる人口減少に伴い、都市機能施設の撤退、公共交通サービス水準の低下が懸念</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少が顕著であり、今後のさらなる人口減少に伴い、都市機能施設の撤退、公共交通サービス水準の低下が懸念</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄道駅や用途地域を中心に都市機能を集約①②</li> <li>既存集落を中心に生活に必要な施設の立地を維持・誘導①②</li> <li>鉄道沿線の拠点間や中心市街地へは鉄道を中心とし、その他の拠点間はバスを中心に公共交通ネットワークの維持・確保を図る。③</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>土地区画整理事業区域内を中心に都市機能を集約①②</li> <li>その他の既存集落を中心に生活に必要な施設の立地を維持・誘導①②</li> <li>バスを中心に拠点間や中心市街地との公共交通ネットワークの維持・確保を図る。③</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄道駅を中心に都市機能を集約①②</li> <li>鉄道沿線の拠点間や中心市街地等へは鉄道を中心に、東西方向はバスを中心に公共交通ネットワークの維持・確保を図る。③</li> </ul>

とともに、地域生活拠点や団地核を基本として、生活利便施設を集約し、一定の人口密度を確保しやすく安全な市街地の形成に向けた土地利用の促進を図る。

特性に応じた公共交通を確保し、地域の拠点間を結ぶ公共交通ネットワークの形成を図る。

